

(様式3—1)

令和5年度	番号
-------	----

令和6年 3月 15日

令和5年度「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進事業」  
実績報告書

文部科学省 総合教育政策局長 望月 禎殿

熊本県阿蘇郡南阿蘇村大字河陽 4518 番地  
学校法人アイデア熊本アジア学園  
(学校名)アイデア IT カレッジ阿蘇  
理事長 井手 修身

令和5年度「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進事業」  
に関する実績報告書の提出について

令和5年度「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進事業」について、実績報告書を提出します。

令和5年度

番号

**令和5年度「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進事業」  
実績報告書**

**1 委託事業の内容**

専門職業人材の最新技能アップデートプログラムの開発

**2 事業名**

観光業界の IT 活用リカレント教育モデル構築事業

**3 代表機関**

**■代表機関(受託法人)等**

法人名	学校法人イデア熊本アジア学園
代表者名	理事長 井手修身
学校名	イデア IT カレッジ阿蘇
所在地	熊本県阿蘇郡南阿蘇村大字河陽 4518 番地

**■事業責任者(事業全体の統括責任者)**

職名	校長
氏名	井手修身
電話番号	0967-65-8021
E-mail	ide@idea-p.co.jp

**■事務担当者(文部科学省との連絡担当者)**

職名	事務長
氏名	菅 彰彦
電話番号	0967-65-8021
E-mail	kan@iica.jp

#### 4 構成機関・構成員等

##### (1) 構成機関(機関として本事業に参画する学校・企業・団体等)

	構成機関(学校・団体・機関等)の名称	役割等	内諾	都道府県名
1	学校法人せとうち 日本 IT ビジネスカレッジ	実証講座への指導・アドバイス	○	岡山県
2	学校法人赤山学園 九州技術教育専門学校	実証講座への指導・アドバイス	○	熊本県

※ 「役割等」においては、同一の役割を複数の機関で分担する場合、主担当となる機関の同欄に「◎」を記載すること(以下同じ)

※ 行が足りない場合は適宜追加して記載すること(以下同じ)

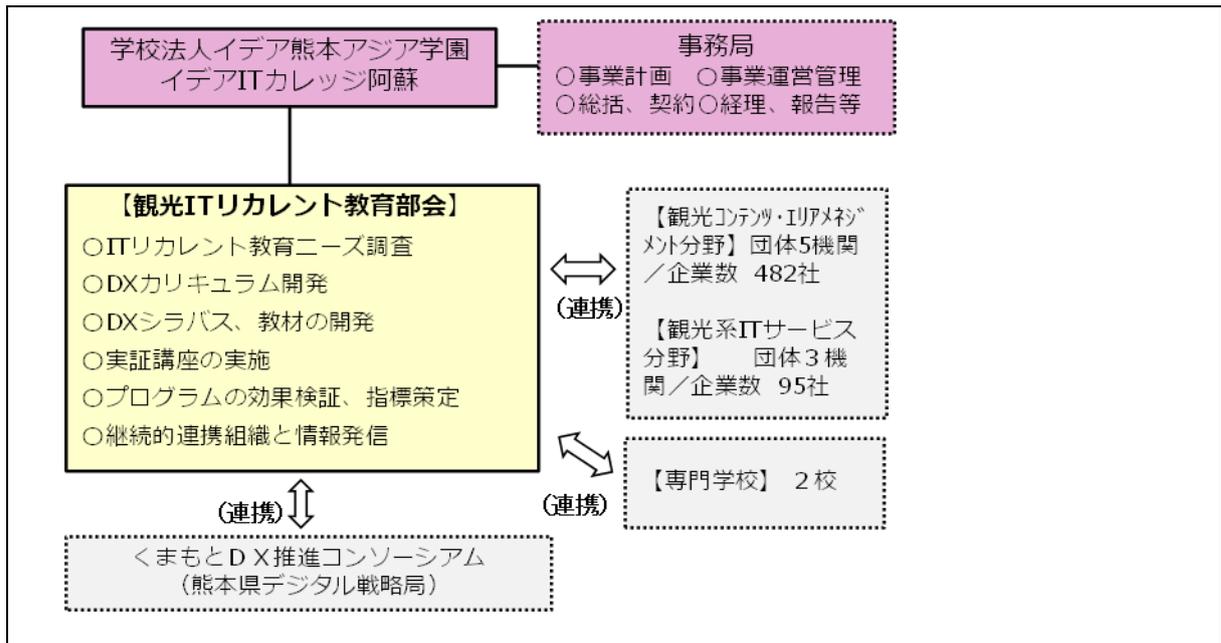
##### (2) 企業・団体

	名称	役割等	都道府県名
1	熊本県旅館生活衛生同業組合	IT 利活用コースのニーズ調査	熊本県
2	黒川温泉観光旅館協同組合	IT 利活用コースのニーズ調査、実証授業受入	熊本県
3	一般社団法人 みなみあそ観光局	IT 利活用コースのニーズ調査、プログラム開発	熊本県
4	(公社)熊本県観光連盟	IT 利活用コースのニーズ調査、普及啓発	熊本県
5	熊本県情報サービス産業協会	IT エンジニアコースのニーズ調査、	熊本県
6	南阿蘇 IT バレー協議会	IT エンジニアコースのニーズ調査	熊本県
7	IICA 注文式教育企業(IT 企業)	IT エンジニアコースのプログラム開発、実証授業受入	熊本県
8	IICA 注文式教育企業(宿泊、DMO)	IT 利活用コースのニーズ調査、プログラム開発、実証授業受入	熊本県

##### (3) 行政機関・その他

	名称	役割等	都道府県名
1	熊本県 デジタル戦略局デジタル戦略推進課	「くまもとDX推進コンソーシアム」との連携	熊本県

#### (4)事業の実施体制



#### (5)各機関の役割・実際に得られた協力事項について

##### ○教育機関

・2つの専門学校に、IT 利活用コース、IT エンジニアコースに対応する、リカレントの2コースのカリキュラムを開発する【観光 IT リカレント教育部会】に委員として入ってもらい、アドバイス、助言をいただいた。

##### ○企業・団体

・観光コンテンツ分野では、熊本県旅館生活衛生同業組合、黒川温泉観光旅館協同組合、南阿蘇村商工会、IICA の注文式教育企業(宿泊、DMO)、  
 ・エリアマネジメント分野では、(公社)熊本県観光連盟、(一社)みなみあそ観光局  
 ・観光系 IT ベンダー分野では、熊本県情報サービス産業協会、南阿蘇 IT バレー協議会、IICA 注文式教育企業(IT 企業)に協力いただき、リカレント教育・企業ニーズ調査を各団体の会員への依頼をいただいた。今年度は、リカレント教育の具体的なシラバスの開発の作成、次年度以降は、各会員へ情報発信をし、リカレント教育の実証講座への受講の呼びかけ等をしていただく予定。

##### ○行政機関、その他

・熊本県 デジタル戦略局デジタル戦略推進課では、「くまもとDX推進コンソーシアム」を立ち上げて、産・学・官が連携して熊本のデジタル化及びDX(デジタルトランスフォーメーション)への取り組み、人材育成を促すことを目的としている。今年度は、【観光 IT リカレント教育部会】に委員として入ってもらい、関係企業や大学等との連携・調整を図っていただいた。

## 5 事業の内容等

### (1) 事業の趣旨・目的等について

・地方においては、人口減少・アフターコロナの日本再生・地域再生の中核を担うのが観光産業である。一方、観光産業は慢性的な人材不足に陥っており、その課題は低い労働生産性と現場の IT スキル人材不足が挙げられる。既に労働力の供給では限界があり、IT スキルのアップデートされた実務人材育成がその課題解決となりえる。

・R4年度文科省の業界向け調査で、既存従業員への IT 利活用の人材育成の必要性が高いことが分かっており、アップデートのプログラムが急務である。

・専門学校イデア IT カレッジ阿蘇(IICA)は、R4年 4 月に熊本県南阿蘇村に、IT と観光サービスの人材を育成するために開校した。IICA では、企業と連携する「注文式教育」を導入して、「IT ソリューション学科」「グローバル IT ビジネス学科」を設置し、観光業界への IT 利活用人材を輩出していくことに取り組んでいる。

・本事業では、①IT 利活用コース、②IT エンジニアコースの IT 活用リカレント教育プログラムによって、既存従業員の知識・技能のアップデートを行い、観光業界で活躍する人材を輩出していくと共に、企業・団体と密に連携した、専門学校の安定的・持続的なりカレント教育のモデル・仕組みを構築する。

### (3) 開発する講座の概要

#### i) 名称

観光業界の IT 活用リカレント教育モデル構築事業

#### ii) 講座に関する基本情報

基本情報	内容・目標等
対象とする職業・分野	商業実務(観光)
学習ターゲット、目指すべき人材像	観光(宿泊分野、DMO、自治体の観光担当者、観光業を支援する情報サービス企業)業界で、リカレント教育の IT 利活用スキルを習得して、現場で IT を駆使して、即戦力となる実務人材とする。
対象者のレベル(当該プログラムの内容に関する基礎知識の有無)	① IT 利活用コース～観光(宿泊施設、DMO・観光関連事業者)業界に従事した経験や地域観光業界に関心が高いスタッフ人材。 ②IT エンジニアコース～情報サービス企業で IT に関する基本的な知識やスキルがある(SE+営業・一般職)方で、観光を支援するサービスに関心が高い若手から中堅人材。
プログラム受講後に想定される受講者のキャリア・受講者が	① IT 利活用コース～宿泊施設、DMO・観光関連の企業や行政の観光部署内で、IT 利活用スキルを習得して、観光 IT の取り組みをリードする人材、その実行を担っていくコア人材

目指す姿	② IT エンジニアコース～情報サービス企業内で、データ活用、企画力・プロマネ力・課題解決力を強化して、SE+営業・一般職で、観光を支援する取り組みをリードする人材。
開発するプログラムの目標受講者数 (1期間あたり)	R6 年度:①IT 利活用コース 本科生 12 人、聴講生 28 人、 合計 40 人 R7 年度:①IT 利活用コース、②IT エンジニアコース 本科生 各 15 人、小計 30 人 、聴講生 40 人、 合計 70 人
開発するプログラムの想定総授業時数 (1期間あたり)	① IT 利活用コース 30 時間、 ② IT エンジニアコース 36 時間
開発するプログラムの想定受講期間 (1期間あたり)	① IT 利活用コース 6 か月間 ② IT エンジニアコース 6 か月間
e-ラーニングの実施の有無	有(全体の 30%程度)

#### (4)具体的な取組

##### i)計画の全体像

###### 【令和5年度】

###### ① 観光ITリカレント教育部会の開催

本事業の進捗及び調査内容やリカレント教育のカリキュラム、シラバス開発に関する助言の会議を開催した。3回 ⇒詳細は後述

###### ② リカレント教育・企業ニーズ調査

IT 利活用コース、IT エンジニアコースの事業者側のリカレント教育に関するニーズの実態を把握した。60件 ⇒98件 詳細は後述

###### ③リカレント教育・先行事例調査

既にリカレント教育を実施している教育機関、行政機関、企業等について先行事例研究を行い、その実態を把握する。6件 ⇒詳細は後述

###### ③ リカレント教育・社会人の学び直し調査

観光業界に関心が高い、転職・就職希望者にリカレント教育調査を行い、その実態を把握する。150件 ⇒261件 詳細は後述

###### ④ IT 利活用コース、IT エンジニアコースのシラバスの開発、教材案の作成

IT 利活用コース、IT エンジニアコースのリカレント教育の具体的なシラバスを開発する。シラバス14本 ⇒16本 詳細は後述  
また、教材の案を一部作成する。

###### ⑥実施モデル検討項目の整理

リカレント教育用の講座実施モデルのプロトタイプ構築及び次年度以降の実証授業の実施に必要な日程、時期、期間、実施形態を整理した。

###### 【令和6年度】

###### ①観光ITリカレント教育部会の開催

本事業の進捗及びリカレント教育のカリキュラム、シラバス開発、及び講座実施に関する助言の会議を開催する。3回

###### ②IT 利活用コース、IT エンジニアコースの教材開発

前年度開発した両コースのシラバスの修正と両コースの教材を開発する。

- ・IT 利活用コース 3科目群、8科目
- ・IT エンジニアコース 4科目群、8科目 合計16科目

###### ③ リカレント教育の広報と受講者募集

IT 利活用コース、IT エンジニアコースの団体・企業向けにHP やパンフレット等のツ

ルを作成し広報を行い、受講者を募集する。

HP の作成、パンフレット制作、動画制作、

#### ④ リカレント教育 実証講座の実施

IT 利活用コースについて、業界・事業者と連携してリカレント講座を開催する。全てを受講する本科生と部分を受講する聴講生枠をつくる。

・IT 利活用コース 8 科目

・本科生 12 人 ・聴講生(部分の受講者) 28 人 合計 40 人

・IT エンジニアコースは、一部の公開講座を開催して、次年度への周知につなげる。

#### ⑤ 企業・団体向けリカレント教育カリキュラム導入調査

本事業の成果物が企業や団体の求める人材像とリカレント教育カリキュラム内容になっているかを、企業・団体に対してヒアリング調査を行いながら本事業の広報活動を行う。

・企業・団体ヒアリング調査・広報活動 12 件程度

#### ⑥ 「注文式教育的な企業提携の仕組み」と継続的連携組織

専門学校と業界団体、企業等で、本事業の成果物が継続的に利活用されるために、「注文式教育的な企業提携の仕組み」を導入する。

### 【令和 7 年度】

#### ① 観光 IT リカレント教育部会の開催

本事業の進捗及びリカレント教育のカリキュラム、シラバス開発、講座実施に関する助言の会議を開催する。3 回

#### ② 2つのコースのシラバス、教材の修正

受講生の結果を受けて、前年度開発した IT 利活用コース、IT エンジニアコースのシラバス及び教材を修正する。

・IT 利活用コース 3 科目群、8 科目

・IT エンジニアコース 4 科目群、8 科目 合計 16 科目

#### ③ リカレント教育の広報と受講者募集

IT 利活用コース、IT エンジニアコースの団体企業向けに HP やパンフレット等のツールを作成し広報を行い、受講者を募集する。

HP、パンフレット等制作、動画制作、

#### ④ リカレント教育 講座の実施

IT 利活用コース、IT エンジニアコースについて、業界・事業者と連携してリカレント講座を開催する。全てを受講する本科生と部分を受講する聴講生枠をつくる。

・IT 利活用コース 8 科目 ・IT エンジニアコース 8 科目

・本科生 各 15 人 計 30 人・聴講生(部分の受講者) 計 40 人 延計 70 人

ii)今年度の具体的活動

○実施事項

【令和5年度】

① 観光ITリカレント教育部会の開催

本事業の進捗及び調査内容やリカレント教育のカリキュラム、シラバス開発に関する助言の会議を開催した。2回⇒3回 詳細は後述

② リカレント教育・企業ニーズ調査

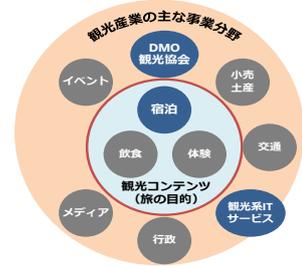
IT 利活用コース、IT エンジニアコースの事業者側のリカレント教育に関するニーズの実態を把握した。・対象者、講座時間、授業形式のニーズを把握。

60件⇒98件

(調査の分析)

観光産業の中でも、特に着目すべきITリカレント教育ニーズを持つ3つの分野

- ① 雇用創出力は高いが労働生産性が著しく低い、宿泊業を中心とする観光コンテンツ分野(宿)
- ② 専門性が高度化してIT人材需要に供給が追いついていないエリアマネジメント分野(DMO)
- ③ 観光事業に精通し、外からITアイデアとテクノロジーを持ち込む観光系ITサービス分野(IT企業)



その分析結果は以下の通りであった。

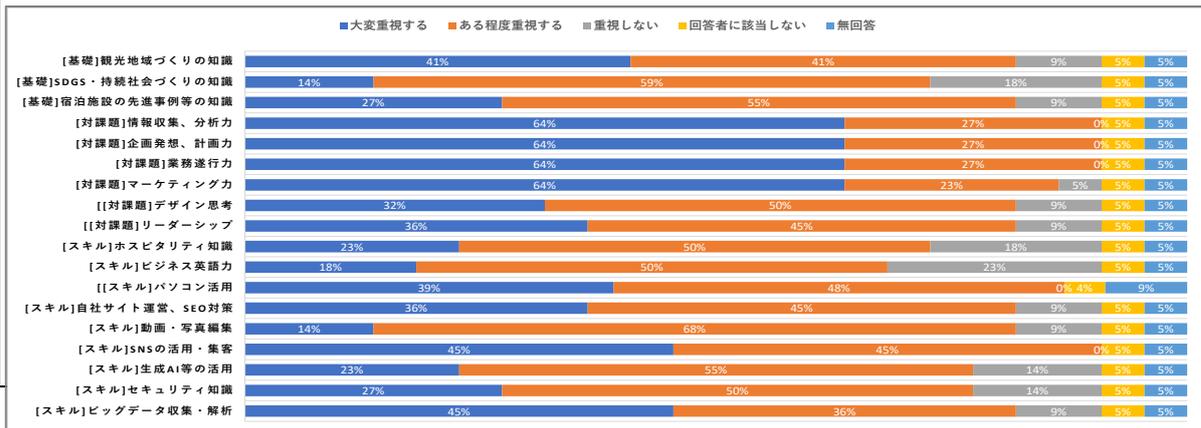
問)IT利活用の「人材育成」必要性や導入について

- ・観光コンテンツ分野(宿) 必要であり、今後検討したい 66%
- ・エリアマネジメント分野(DMO) 必要であり、今後検討したい 95%
- ・ITサービス分野(IT企業) では既に過去も実施し、今後も導入・実施していく 80%

問)どのようなスキルや知識が必要と考えられるかについて

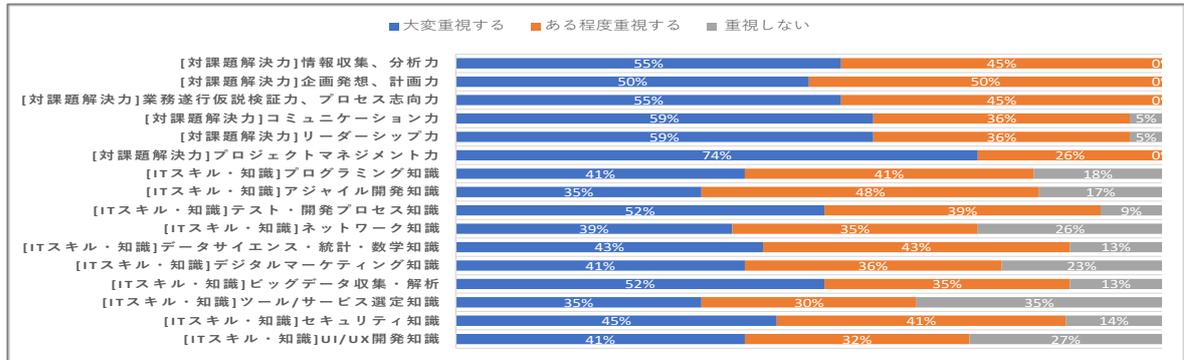
- ・観光コンテンツ分野(宿)、エリアマネジメント分野(DMO)は共通して、対課題解決力【業務推進力】【情報収集・分析力】【企画発想・計画力】【マーケティング力】が高い。
- また、スキル【SNSの活用・集客】【自社サイト運営・SEO対策】【ビッグデータ解析】基礎知識【観光地域づくり事例】【ホスピタリティ知識】が挙げられた。

「エリアマネジメント分野(DMO)のスキル・知識の重視度合い」



・IT サービス分野(IT 企業)の場合、対課題解決力【プロジェクトマネジメント力】が特に高く、【コミュニケーション力】【リーダーシップ力】【情報収集・分析力】【企画発想・計画力】、IT スキル・知識では【テスト・開発プロセス知識】【ビッグデータ収集・解析】【セキュリティ知識】が重要視されている。

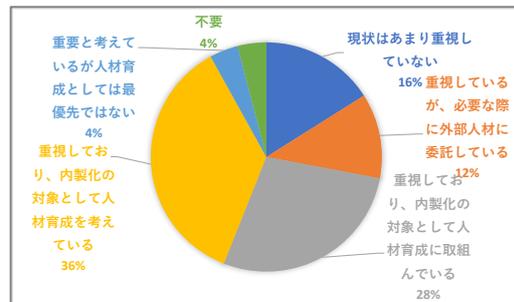
「IT サービス分野(IT 企業)のスキル・知識の重視度合い」



問)IT 企業のみ:現在、将来で「データサイエンティスト」の人材育成の重要度

- ・重視しており、内製化の対象として人材育成に取り組んでいる 28%、
- ・重視しており、内製化の対象として人材育成を考えている 36%

IT 企業においては、「データサイエンティスト」の人材育成を 64%が重要視していることがわかった。



問)どのような形式の「人材育成」プログラムを望むか

○社外で実施される集合型の研修、講義 について

- ・観光コンテンツ分野(宿) 望む、できれば望む 50%と相対的に低い
- ・エリアマネジメント分野(DMO) 望む、できれば望む 77%と高い
- ・IT サービス分野(IT 企業) 望む、できれば望む 80%と高い

○社外で実施されるオンライン参加の研修、講義

- ・観光コンテンツ分野(宿) 望む、できれば望む 54%と相対的に低い
- ・エリアマネジメント分野(DMO) 望む、できれば望む 86%と高い
- ・IT サービス分野(IT 企業) 望む、できれば望む 80%と高い

問)「人材育成」の時間(セミナー、研修のトータル時間)はどの位の長さを望むか?

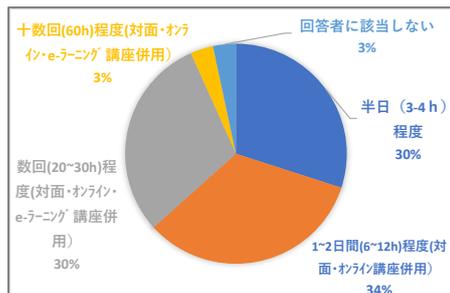
○観光コンテンツ分野(宿)

- ・半日(3-4h)程度 38%、1~2 日間(6~12h)程度 13%、数回(20~30h)程度 17%で、現実的に半日~1日程度が従業員の人材育成に費やせる時間と言える。



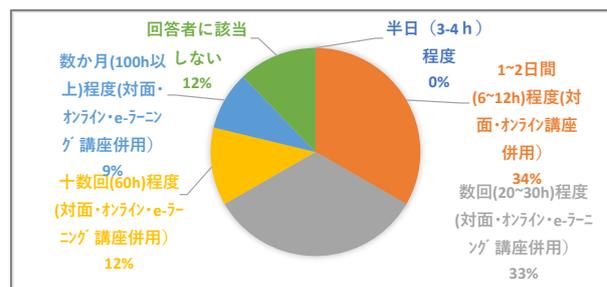
○エリアマネジメント分野(DMO)

・半日(3-4h)程度 30%、1-2日間(6-12h)程度 34%、数回(20~30h)程度 30%で、1日~数回で10h~30h程度を従業員の人材育成に費やせる時間と言える。



○IT サービス分野(IT 企業)

・1-2日間(6~12h)程度 34%、数回(20~30h)程度 33%、十数回(60h)程度 12%、数か月間(100h)程度 12%、数回で20h~40h程度を従業員の人材育成に費やせる時間帯といえる。



問)「人材育成」のコスト(セミナー、研修の費用負担)はどの形態を望むか?

○観光コンテンツ分野(宿) 会社負担 29%、行政、組合等が主催で無料 41%、個人一部負担 4%、

○エリアマネジメント分野(DMO) 会社負担 38%、行政、組合等が主催で無料 48%、個人一部負担 10%、

○IT サービス分野(IT 企業) 会社負担 50%、行政、組合等が主催で無料 32%、個人一部負担 8%、

問)文部科学省事業で「リカレント人材育成プログラム」を令和 6 年度から実証的に講座を開催した場合の導入について

○観光コンテンツ分野(宿)  
 ・既存従業員のスキルアップとして 条件次第で受講・導入してみたい 18%、今後、検討していきたい 38%

○エリアマネジメント分野(DMO)  
 ・既存従業員のスキルアップとして 条件次第で受講・導入してみたい 32%、今後、検討していきたい 36%

○IT サービス分野(IT 企業)  
 ・既存従業員のスキルアップとして 条件次第で受講・導入してみたい 28%、今後、検討していきたい 44%

### ③ リカレント教育・先行事例調査

既にリカレント教育を実施している教育機関、行政機関、企業等について先行事例研究を行い、その実態を把握した。 **6件**

○事例研究からのコメント

- ・大学のリカレント教育 60 時間以上の履修証明プログラムの時間は、本受講生にとって、結構ハードルが高かった。30 時間程度は妥当であろう。
- ・他の学校でもリカレント教育プログラムの受益者負担として、個人がどのくらいコスト負担できるかが悩ましい。
- ・フィールドワークについては、全国の先進地に学びたいというニーズがかなり高かったので、阿蘇での特別感のある FW は可能性がある。
- ・地域観光の IT 利活用コースは、阿蘇の現場 FW との連携などは面白いと考えられる。
- ・一方、IT エンジニアコースのテーマ「生成 AI×データ活用で次世代の課題解決力」は良いが、IT 企業の従業員がどこまで対面や FW を受講できるかは課題であろう。
- ・受講生の募集が難しいので、大学や自治体との連携も視野に入れてみてはどうか。
- ・60 時間の正規講座は、時間的に、土日開催は、受講生には厳しいスケジュールである。今回は、30 時間を一つの目安としたい。

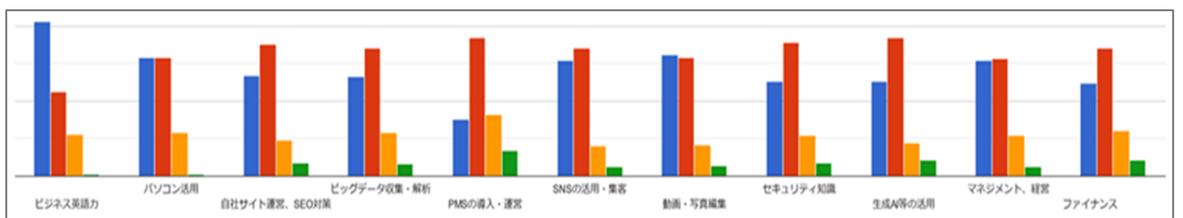
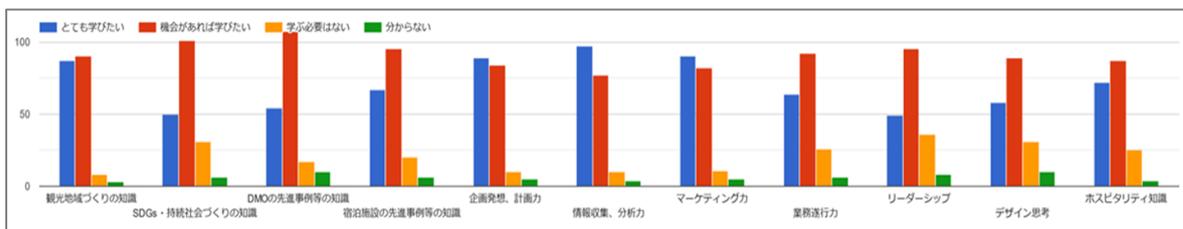
### ④ リカレント教育・社会人の学び直し調査

観光業界に関心が高い、転職・就職希望者にリカレント教育調査を行い、その実態を把握した。・対象者、講座時間、授業形式のニーズを把握した。 **150件⇒261件**

\* 261 件中、観光業界で活躍するためにリカレント教育を受講してみたいと回答した方の回答（観光関連業務に従事している方 約 6割）

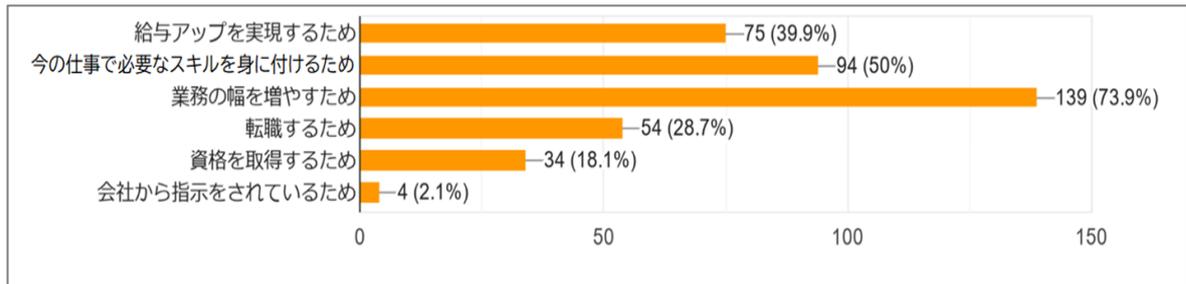
問)どのようなスキル・知識を学びたいと思うか。

- ・対課題解決力【情報収集・分析力】【企画発想・計画力】【マーケティング力】が高い。
- また、スキル【パソコン活用】【SNS の活用・集客】【動画制作・編集】【ビックデータ解析】【英語力】が挙げられた。



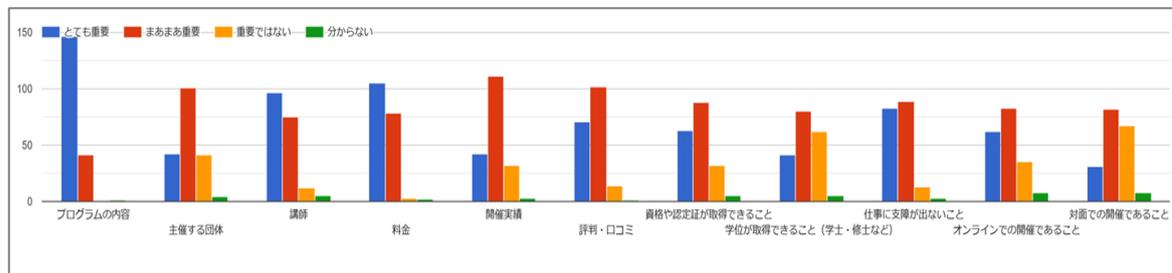
問)リカレント教育を受講したい理由(受講の目的)

・業務の幅を増やすため、仕事に必要なスキル取得、給与アップを実現するためにが、多く回答された。



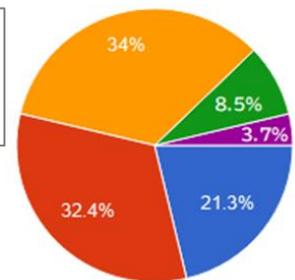
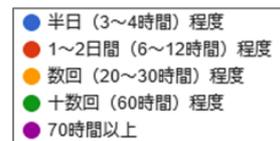
問)リカレント教育の受講を検討する上で、各項目の重要度

・プログラム内容と講師陣、料金が多いことと、「仕事に支障がないこと」で曜日やオンライン対応の必要性も挙げられた。



問)学びたいプログラムがあった場合、プログラムのトータル時間はどれくらいか。

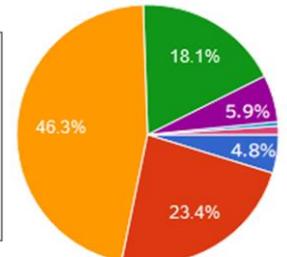
・半日(3-4h)程度 21%、1-2 日間(6-12h)程度 32%、数回(20~30h)程度 34%で、1日~数回で 10h~30h程度を学びの時間にあてられると言える。



⇒エリアマネジメント分野(DMO)の事業者側の要望と近いことが伺えた。

問)「学び」にかけられる予算は【1 カ月】あたりどの程度か？

・1,000 円~5,000 円 23%、5,000 円~1 万円 46%、1 万円~2 万円 18%で、5,000 円~1 万円/月を個人負担できるといえる。



◎以上のマーケティング調査の結果を踏まえて、

- ①IT 利活用コース(宿、DMO)~当初計画 十数回 60h⇒数回 全体を 30h程度、宿については、その中から、オプション選択科目として、半日~1 日 5h 程度。
- ②エンジニアコース(IT企業)~当初計画 十数回 80h ⇒全体を 30~40h程度、内容は、「データサイエンティスト」だけに特化しない、基礎的な要素を取り入れていくことを方向付けることができた。

## ⑤ カリキュラム構成・シラバスの開発

IT 利活用コース、IT エンジニアコースのリカレント教育のカリキュラム構成を開発した。

- ・IT 利活用コース 3 科目群、8 科目
- ・IT エンジニアコース 4 科目群、8 科目 合計 16 科目

### ◎IT 利活用コース

#### 【全体テーマ】

「課題解決力×IT スキルで観光地域づくりを加速させる～地域観光リーダー育成塾」

【企画概要】：九州・熊本の事例や、観光の現場に特化した AI・IT 活用スキルを学ぶことで、現場で役立つ人材になれる。九州や熊本のリアルな事例を学べる、アクティブ・ラーニングで確かな実務力が習得できる。また多様な同志・仲間と出会えるコミュニティ支援の仕組みがある。

#### 【対象者】

- (本科生)：観光地域づくりの現場(行政、観光協会、DMO 等)で地域貢献をしたいと、自費で学びに来る方(現役、新規参入者含む)
- (聴講生)：観光地域づくりへの興味関心が高く、知見を広めたい人(例：行政や旅行会社の幹部、地方進出を検討する民間企業など)

【構成】：①観光地域づくりの取り組み方について学ぶ教養科目群、②観光 DX について学ぶ実務科目群、③阿蘇 FW を通して学ぶ実践科目群の 3 部構成

【科目数】：8 科目

【受講者数】：R6 年度 本科生 12 人 ・聴講生(部分の受講者) 28 人 計 40 人  
R7 年度 本科生 15 人 ・聴講生(部分の受講者) 30 人 計 45 人

【授業形式と時間】：合計 30 時間、・リアルタイム型オンライン講義 7.5 時間  
・オンデマンド型 e-ラーニング 9.5 時間 ・現地開催 13.時間

【構成】：教養科目群と実務科目群を交互に平日夜に毎週開催する。スポット的に希望制の実践科目群が入る。実践科目群：阿蘇 FW は、1 泊 2 日で土日に開催する。また、選択科目(SNS&PR、動画制作)は、宿泊施設で働いている人もターゲットにするので平日日中に開催する。  
全体 3 ヶ月で開講。各科目の部分的な受講も可能にする。

【開催時期】：令和 6 年 6 月～11 月

【カリキュラム構成】

IT 利活用コース

科目群	科目名	総時間	リアルタイム型 オンライン 講義	オンデマンド型 e-ラーニング	現地 (阿蘇)
【教養科目群：観光地域づくり】					
地域のトップランナーからの講義を通して地域の課題解決へのアプローチ方法を習得	観光地域づくり学	6.0	0	6.0	0
【実務科目群：観光DX】	AI&ITツール利活用 実務	4.0	3.0	1.0	0
	予習・参加型講義・課題を通して実務的な思考・作業力を習得	2.0	1.5	0.5	0
	デジタルマーケティング実務	2.0	1.5	0.5	0
	観光DX実務	4.0	3.0	1.0	0
【実践科目群：阿蘇FW】	PR&SNS 実践	3.5	0	0.5	3.0
	阿蘇での演習・フィールドワークを通して実践的にスキルを習得	3.5	0	0.5	3.0
	動画制作 実践	3.5	0	0.5	3.0
	地域課題解決 実践	4.0	0	0	4.0
	復興と観光地域づくり 実践	3.0	0	0	3.0
<b>3 科目群</b>	<b>8 科目</b>	<b>30.0 時間</b>	<b>7.5 時間</b>	<b>9.5 時間</b>	<b>13.0 時間</b>

## ◎IT エンジニアコース

### 【全体テーマ】

「観光 DX の実践事例に基づくデータ分析・AI 活用実践力強化」

【企画概要】:観光 DX の実践事例を基に、データ分析や AI 活用の基礎知識、具体的なツールや技術の活用方法を集中的に学び、DX 推進実務ですぐに役立つスキルを習得する。また阿蘇で多様な同志・仲間と出会えるコミュニティ支援の仕組みがある。

### 【対象者】

(本科生):IT 企業に勤務する SE、営業、一般職の若手～中堅社員。DX 推進の事例を学び、実践的なスキルを習得したい方。生成 AI の基礎知識を学び、実践的なスキルを習得したい方。データ分析の基礎知識を学び、実践的なスキルを習得したい方。  
(聴講生):DX 推進におけるデータ分析・AI 活用の基礎を学びたい方。

【構成】:①DX 推進におけるデータ分析・AI 活用の役割、②DX 実践ケーススタディ、  
③トレーニングデータ分析、④グループワーク科目群の4部構成

【科目数】:8 科目

【受講者数】:R7 年度 本科生 15 人 ・聴講生(部分の受講者) 10 人 計 25 人

【授業形式と時間】:合計 36 時間、・リアルタイム型オンライン講義 16.5 時間  
・オンデマンド型 e-ラーニング 7.5 時間 ・現地開催 12.時間

【構成】:リアルタイム型オンライン講義として各科目は原則、平日夜に毎週開催する。  
ただし、リアルタイム授業を録画して閲覧可能とする形では、e-ラーニングできる。グループワーク・プレゼンテーション科目群は、阿蘇 FW は、土日に開催する。DX 推進におけるデータ分析・AI 活用の役割科目群は、部分的な受講も可能にする。  
全体 3ヶ月で開講。

【開催時期】:令和 7 年 6 月～11 月

【カリキュラム構成】

IT エンジニアコース

科目群	科目名	総時間	リアルタイム型 オンライン講義	オンデマンド型 e-ラーニング	現地開催 (阿蘇)	開講日
①DX推進における データ分析・AI 活用の役割	生成AIの基本としくみを理解する	6	6	0 リアルタイム 授業を録 画して閲 覧可能	0	平日夜間 (18～ 19時半)
	データ分析の基本としくみを理解する	3	3	0 リアルタイム 授業を録 画して閲 覧可能	0	
	データ分析・AI活用を成功させるためのポイント	3	3	0 リアルタイム 授業を録 画して閲 覧可能	0	
②DX実践ケース スタディ	陣屋コネク社のDX推進戦略と取り組み	3	1.5	1.5	0	オンデマンド (撮影時リアルタイム)
③トレーニング データ分析	DX実践ケーススタディの振り返り	3	3	0 リアルタイム 授業を録 画して閲 覧可能	0	平日夜間 (18～ 19時半)
	データ分析・AI活用ツールのハンズオン トレーニング	9	オンライン 受講可	3	6 前半	平日 もしくは 土曜日 10～ 17時
④グループワーク プレゼンテーション	各自テーマの設定・グループワーク	6	オンライン 受講可	3	3 後半	
	プレゼンテーション	3	オンライン 受講可	0 リアルタイム 授業を録 画して閲 覧可能	3	
<b>4科目群</b>	<b>8科目</b>	<b>36.0時間</b>	<b>16.5時間</b>	<b>7.5時間</b>	<b>12.0時間</b>	

## ◎各シラバスの開発

### (1)IT利活用コース・シラバス ①観光地域づくり学 I

#### 学習支援計画書（シラバス）

コース名	科目群名	科目名
IT利活用コース	教養科目群 (観光地域づくり)	観光地域づくり学 I
総時間	受講対象者	講師候補
3.0	本科生 聴講生	ゲスト講師

#### ●科目概要

観光地域づくり／地域課題解決のための知見・ノウハウを実践者から学ぶ

※e-ラーニング受講も可能だが、撮影時にリアルタイム配信を行い、その際は質疑も受け付ける

#### ●到達目標

少子高齢化・過疎化が進む地方部における、観光を用いた地域活性化の具体的なアプローチ手法とその裏側にある考え方を習得する。

#### ●授業内容

時間数	授業内容
1.0	地域活性化の手法と考え方を知る ゲスト講師：井手修身（アイデアパートナーズ株式会社）
1.0	くまモン学：くまモンを用いた地域づくり事例 ゲスト講師：柳田紀代子（尚絅大学）
1.0	データに基づく地域づくりとDMOの役割 ゲスト講師：門田隆（株式会社マサカノ）
1.0	宿泊施設におけるDXの取り組み事例 ゲスト講師：宮崎富夫（株式会社陣屋コネクト）
1.0	九州パンケーキを通じたエリアブランディング ゲスト講師：村岡浩司（株式会社九州テーブル）
1.0	ビジネスを通じた農村活性化 ゲスト講師：飯干淳志（株式会社高千穂ムラたび）

#### ●受講形式

総時間	リアルタイム型 オンライン講義	オンデマンド型 e-ラーニング	現地 フィールド ワーク
6	0	6	0

**(1)IT利活用コース・シラバス ②AI&ITツール利活用 実務****学習支援計画書（シラバス）**

コース名	科目群名	科目名
IT利活用コース	実務科目群 (観光DX)	AI&ITツール利活用 実務
総時間	受講対象者	講師候補
4	本科生	久保堯之（一般社団法人みなみあそ観光局）

**●科目概要**

観光地域づくりの現場におけるITツールの活用方法を習得する

- ①実務系ITツール（生成系AI）を使いこなす
- ②実務系ITツール（デザインツール）を使いこなす

**●到達目標**

- ・生成系AI（テキスト、画像）を実業務の中で使えるようになること
- ・デザインツールを実業務の中で使えるようになること

**●授業内容**

時間数	授業内容
0.5	生成系AIの基礎
1.5	生成系AIの実務での活用（Chat GPTを想定）
0.5	デザインツールの基礎
1.5	デザインツールの実務での活用（Canvaを想定）

**●受講形式**

総時間	リアルタイム型 オンライン講義	オンデマンド型 e-ラーニング	現地 フィールド ワーク
4	3	1	0

**(1)IT利活用コース・シラバス ③デジタルマーケティング 実務****学習支援計画書（シラバス）**

コース名	科目群名	科目名
IT利活用コース	実務科目群 (観光DX)	デジタルマーケティング 実務
総時間	受講対象者	講師候補
2	本科生	久保堯之（一般社団法人みなみあそ観光局）

## ●科目概要

観光地域づくりに必要なマーケティングの全体像を知り、WEBサイトやSNS、Googleマイビジネス等の導線設計と運用のポイント、インターネット広告の設計と運用について学ぶ

## ●到達目標

- ・ デジタルマーケティングの全体像と導線設計の考え方が分かること
- ・ 簡単なインターネット広告の設計ができること

## ●授業内容

時間数	授業内容
0.5	デジタルマーケティングの基礎
1.5	デジタルマーケティングのポイントとインターネット広告の設計

## ●受講形式

総時間	リアルタイム型 オンライン講義	オンデマンド型 e-ラーニング	現地 フィールド ワーク
2	1.5	0.5	0

## (1)IT利活用コース・シラバス ④観光DX 実務

### 学習支援計画書（シラバス）

コース名	科目群名	科目名
IT利活用コース	実務科目群 (観光DX)	観光DX 実務
総時間	受講対象者	講師候補
2	本科生	久保堯之（一般社団法人みなみあそ観光局）

#### ●科目概要

観光DXや、現場でのテクノロジー導入のケーススタディを行う

- ①IoTやデータ活用（データドリブンな戦略策定）
- ②旅館マーケティング（OTAの利活用）

#### ●到達目標

- ・観光の現場で、IoTを用いたデータに基づくエリアマーケティングの流れを理解すること
- ・宿泊施設のマーケティングの流れやOTAを用いた実作業を理解すること

#### ●授業内容

時間数	授業内容
0.5	観光データ活用の基礎
0.5	IoTやデジタルツールを用いた戦略運用のケーススタディ
0.5	旅館マーケティングの基礎
1.5	旅館の誘客とOTA運用のケーススタディ

#### ●受講形式

総時間	リアルタイム型 オンライン講義	オンデマンド型 e-ラーニング	現地 フィールド ワーク
4	3	1	0

## (1)IT利活用コース・シラバス ⑤PR&SNS 実践

### 学習支援計画書（シラバス）

コース名	科目群名	科目名
IT利活用コース	実践科目群 (阿蘇FW)	PR&SNS 実践
総時間	受講対象者	講師候補
3.5	本科生（希望者） 聴講生（宿中心）	廣瀬実華（イデアパートナーズ株式会社）

#### ●科目概要

プレスリリースの書き方、SNSの運用方法、投稿内容、SNS広告のかけ方（A/Bテストや予算策定）を学ぶ。

#### ●到達目標

- ・プレスリリース作成に慣れること。
- ・SNSのフィード投稿以外の機能を使いこなせること。
- ・簡単な制作物を作成出来るようになること。

#### ●授業内容

時間数	授業内容
0.5	SNS広告概要
1	プレスリリース実践
2	SNSの活用、デザイン活用

#### ●受講形式

総時間	リアルタイム型 オンライン講義	オンデマンド型 e-ラーニング	現地 フィールド ワーク
3.5	0	0.5	3

## (1)IT利活用コース・シラバス ⑥動画制作 実践

### 学習支援計画書（シラバス）

コース名	科目群名	科目名
IT利活用コース	実践科目群 (阿蘇FW)	動画制作 実践
総時間	受講対象者	講師候補
3.5	本科生（希望者） 聴講生（宿中心）	柚上顕次郎（南阿蘇フィルム）

#### ●科目概要

プロモーションの一環として日常的にSNSやYouTubeにアップロードする動画を、スマホと簡単な編集作業（カット、テロップ、BGM/SEなど）で制作する

#### ●到達目標

- ・プロモーションにおける動画の有用性を理解すること
- ・見やすい動画をスマホで撮影できるようになること
- ・スマホで撮影した動画を、自分で簡単な編集作業ができるようになること

#### ●授業内容

時間数	授業内容
0.5	動画制作の基礎
1	動画撮影 実践
2	動画編集 実践

#### ●受講形式

総時間	リアルタイム型 オンライン講義	オンデマンド型 e-ラーニング	現地 フィールド ワーク
3.5	0	0.5	3

## (1)IT利活用コース・シラバス ⑦地域課題解決 実践

### 学習支援計画書（シラバス）

コース名	科目群名	科目名
IT利活用コース	実践科目群 (阿蘇FW)	地域課題解決 実践
総時間	受講対象者	講師候補
4	本科生（希望者） 聴講生	久保堯之（一般社団法人みなみあそ観光局）

#### ●科目概要

地域活性化と観光・地域経済のあり方、ビジネスにおける戦略思考とマーケティング思考、IT利活用の現状を阿蘇の事例を通して学ぶ。また、ファシリテーション力と対話に基づく地域づくりのあり方を学ぶ。

#### ●到達目標

- ・地域課題解決に必要な戦略思考とマーケティング思考の基本を習得すること
- ・対話を促進するファシリテーションの基本を習得すること

#### ●授業内容

時間数	授業内容
1	地域の現状と課題解決アプローチ（阿蘇の事例）
2	地域におけるビジネス戦略思考とマーケティング思考
1	ファシリテーション研修

#### ●受講形式

総時間	リアルタイム型 オンライン講義	オンデマンド型 e-ラーニング	現地 フィールド ワーク
4	0	0	4

**(1)IT利活用コース・シラバス ⑧復興と観光地域づくり 実践****学習支援計画書（シラバス）**

コース名	科目群名	科目名
IT利活用コース	実践科目群 (阿蘇FW)	復興と観光地域づくり 実践
総時間	受講対象者	講師候補
3	本科生（希望者） 聴講生	久保堯之（一般社団法人みなみあそ観光局）

## ●科目概要

これからの地方で不可避となる「自然災害」と「観光地域づくり」について、熊本地震震災ミュージアムKIOKU、創造的復興を遂げた事業者の視察、復興リーダーとの意見交換を通して学ぶ

## ●到達目標

- ・自然災害に強いレジリエンスの考え方を習得すること
- ・非常時にも折れない、芯のある地域リーダーとしてのマインドを持てるようになること

## ●授業内容

時間数	授業内容
1	熊本地震震災ミュージアムKIOKU 視察
1	創造的復興を遂げた事業者の視察（地獄・垂玉温泉などを想定）
1	事業者（復興リーダー）との意見交換と自分事化

## ●受講形式

総時間	リアルタイム型 オンライン講義	オンデマンド型 e-ラーニング	現地 フィールド ワーク
3	0	0	3

**(2)ITエンジニアコース・シラバス ①生成AIの基本としくみを理解する**

**学習支援計画書（シラバス）**

コース名	科目群名	科目名
ITソリューション	DX推進におけるデータ 分析・AI活用の役割	生成AIの基本としくみを理解する
総時間	受講対象者	講師候補
6.0	本科生 聴講生	門岡 良昌

●科目概要

・本科目では、データ分析とAIの基本的な理論から実際の活用法までを幅広く学ぶ。生成AIの基本構造、データ分析の手法やツールの使い方、DX事例に見る成功のポイントなど、実務で直ちに活かせる具体的な知識とスキルの習得を目指す。

●到達目標

- ・AI技術の基本と企業内での活用全体像を理解する。
- ・生成AIの原理と構造、発展のキーポイントを把握する。
- ・データ分析の基礎と主要な分析手法、ツールの活用法を学ぶ。
- ・実際の観光DX事例を参照し、データ分析とAI活用の成功要因を理解する。
- ・データ分析・AI活用のための効果的なチーム作りを習得する。

●授業内容

時間数	授業内容
2.0	AI技術の概要と企業におけるAI活用の全体像 生成AIの基本：誕生の背景／仕組み
2.0	生成AIを成長・進化させるキーポイント
2.0	使いこなすために必要なプロンプト力

●受講形式

総時間	リアルタイム型 オンライン講義	オンデマンド型 e-ラーニング※	現地 フィールド ワーク
6.0	6.0	0.0	0.0

※リアルタイム授業を録画して閲覧可能とする

## (2)ITエンジニアコース・シラバス ②データ分析の基本としくみを理解する

### 学習支援計画書（シラバス）

コース名	科目群名	科目名
ITソリューション	DX推進における データ分析・AI活用 の役割	データ分析の基本としくみを理解する
総時間	受講対象者	講師候補
3.0	本科生 聴講生	門岡 良昌

#### ●科目概要

・本科目では、データ分析の基礎から応用に至るまでの一連のプロセスを学ぶ。まず、データ分析の目的と基本的な流れを理解し、オープンデータの重要性と活用方法に触れる。その後、データを分析するための様々な手法とツールを学習し、実際のビジネスシーンでの活用方法を習得することを目指す。

#### ●到達目標

- ・データ分析の定義、目的、プロセスを明確に理解する。
- ・オープンデータの意義、取得方法、活用例を学び、実際にデータを解釈する能力を養う。
- ・分析のための主要な手法（記述統計、推測統計、回帰分析など）と基本的な分析ツールの操作を習得する。
- ・分析結果のビジネスへの応用方法を理解し、実務でのデータ活用スキルを高める。

#### ●授業内容

時間数	授業内容
1.0	データ分析とは
1.0	オープンデータから見えてくるもの
1.0	主要な分析手法とツール

#### ●受講形式

総時間	リアルタイム型 オンライン講義	オンデマンド型 e-ラーニング※	現地 フィールド ワーク
3.0	3.0	3.0	0.0

※リアルタイム授業を録画して閲覧可能とする

## (2)ITエンジニアコース・シラバス ③データ分析・AI活用を成功させるためのポイント

### 学習支援計画書（シラバス）

コース名	科目群名	科目名
ITソリューション	DX推進における データ分析・AI活用 の役割	データ分析・AI活用を成功させるためのポイント
総時間	受講対象者	講師候補
3.0	本科生 聴講生	富山 孝治

#### ●科目概要

・本科目では、データ分析・AI活用の成功事例に学び、これらの技術がビジネスにおいてどのように役立つかを深掘りする。組織内での適切な体制作りやチーム構築の方法、さらには、目的に応じたツールの選定方法について学ぶ。これらの知識を通じて、受講者は実際の業務におけるデータ分析・AI活用の成功への道筋を理解する。

#### ●到達目標

- ・データ分析とAI活用の具体的な成功事例を学び、成功の要因を理解する。
- ・効率的なデータ分析・AI活用のための組織体制やチーム作りの重要性を学ぶ。
- ・実務においてデータ分析・AIを活用する際の適切なツール選定の方法を習得する。
- ・成功事例を基に、自組織でのデータ分析・AI活用戦略を考案するための基礎を学ぶ。
- ・体制構築とツール選定の知識を活用し、自身の業務やプロジェクトでの応用を目指す。

#### ●授業内容

時間数	授業内容
1.0	データ分析・AI活用の成功事例から学ぶ
1.0	データ分析・AI活用を成功させるための体制作り
1.0	データ分析・AI活用を成功させるためのツールの活用

#### ●受講形式

総時間	リアルタイム型 オンライン講義	オンデマンド型 e-ラーニング※	現地 フィールド ワーク
3.0	3.0	0.0	0.0

※リアルタイム授業を録画して閲覧可能とする

## (2)ITエンジニアコース・シラバス ④陣屋コネク社のDX推進戦略と取り組み

### 学習支援計画書（シラバス）

コース名	科目群名	科目名
ITソリューション	DX実践ケース スタディ	陣屋コネク社のDX推進戦略と取り組み
総時間	受講対象者	講師候補
3.0	本科生 聴講生	宮崎 富夫（陣屋コネク）

#### ●科目概要

・本科目では、DX推進における具体的な知見とノウハウを、実際にDXを推進してきた講師から学ぶ。講師は自身の経験を基に、DX推進の成功事例やそこでの課題、成功のためのポイントを共有する。受講者は、実務者の生の声からDX推進における実践的な理解を深め、自身の業務に活かすためのインサイトを獲得する。

#### ●到達目標

- ・実践者の経験談から、DX推進の際に直面する課題とその解決策を理解する。
- ・成功事例を通じて、DX推進に必要な戦略立案と実行のポイントを学ぶ。
- ・DX推進のプロセスにおいて重要な役割を果たすシステム担当と利用部門の連携について学ぶ。
- ・講師の実体験に基づく具体的な事例研究を通じて、理論だけでは得られない実践的な知見を得る。

#### ●授業内容

時間数	授業内容
3.0	DX推進の知見・ノウハウを実践者から学ぶ

#### ●受講形式

総時間	リアルタイム型 オンライン講義	オンデマンド型 e-ラーニング	現地 フィールド ワーク
3.0	1.5	1.5	0.0

## (2)ITエンジニアコース・シラバス ⑤DX実践ケーススタディの振り返り

### 学習支援計画書（シラバス）

コース名	科目群名	科目名
ITソリューション	トレーニング データ分析	DX実践ケーススタディの振り返り
総時間	受講対象者	講師候補
3.0	本科生	富山 孝治

#### ●科目概要

・この科目では、DXの実践ケーススタディを詳細に振り返り、成功したプロジェクトの重要ポイントとデータ分析・AIの活用事例を深く学ぶ。受講者は、これらの事例から得た知見を基に、自身の業務やプロジェクトに応用できる戦略を考案する。この科目を通じて、理論と実践の結びつきを強化し、DX推進の具体的なアプローチを理解する

#### ●到達目標

- ・実際に成功したDXプロジェクトにおける、重要な推進ポイントを整理する。
- ・データ分析・AI活用がDXプロジェクトにおいてどのように利用されたか、その具体的な内容を整理する。
- ・学んだ内容を自身の業務やプロジェクトに応用する方法を検討し、具体的なアクションプランを考える。
- ・成功事例の理解を深め、自組織におけるDX推進のヒントを得る

#### ●授業内容

時間数	授業内容
1.0	ケーススタディから学んだDX推進ポイントの整理
2.0	ケーススタディのDX推進におけるデータ分析・AI活用の具体的な内容

#### ●受講形式

総時間	リアルタイム型 オンライン講義	オンデマンド型 e-ラーニング※	現地 フィールド ワーク
3.0	3.0	0.0	0.0

※リアルタイム授業を録画して閲覧可能とする

## (2)ITエンジニアコース・シラバス

### ⑥データ分析・AI活用ツールのハンズオントレーニング

#### 学習支援計画書（シラバス）

コース名	科目群名	科目名
ITソリューション	トレーニング データ分析	データ分析・AI活用ツールのハンズオントレーニング
総時間	受講対象者	講師候補
3.0	本科生	富山 孝治

#### ●科目概要

・本科目では、データ分析・AI活用ツールの基礎操作から始め、実際にこれらのツールを用いたデータ分析のプロセスを学ぶ。ハンズオントレーニングを通じて、参加者は具体的なツールの使い方を習得し、実業務に即した課題解決のアプローチを体験する。

#### ●到達目標

- ・データ分析・AI活用ツールの基本的な操作技術を習得する。
- ・ツールを活用してデータ分析を行う具体的な方法を学ぶ。
- ・ハンズオントレーニングを通じて、ツールの効果的な使用法を身に付ける。
- ・実際のビジネスシナリオを想定し、データ分析・AIの活用方法を練習する。
- ・学んだ技術を用いて、自社のデータを分析し、具体的なインサイトを導き出す方法を習得する。

#### ●授業内容

時間数	授業内容
3.0	データ分析・AI活用ツールの基礎操作
3.0	データ分析・AI活用ツールの活用方法
3.0	自社の課題解決に役立つデータ分析・AI活用の方法

#### ●受講形式

総時間	リアルタイム型 オンライン講義	オンデマンド型 e-ラーニング	現地 フィールド ワーク
9.0	6.0	3.0	6.0

## (2)ITエンジニアコース・シラバス ⑦各自テーマの設定・グループワーク

### 学習支援計画書（シラバス）

コース名	科目群名	科目名
ITソリューション	グループワーク	各自テーマの設定・グループワーク
総時間	受講対象者	講師候補
6.0	本科生	富山 孝治

#### ●科目概要

・この科目では、受講者はこれまで学んだデータ分析・AIの基礎知識、DXの実践事例、ツールのハンズオントレーニングを活用して、自身の業務に関連するDX推進のテーマを設定し、具体的な企画を立案する。グループワークを通じて、異なるバックグラウンドを持つ他の受講者と協力しながら、実行可能なDX推進企画を作成する。この過程で、参加者は戦略的思考、チームワーク、プレゼンテーションスキルを養う。最終的には、業務改善や革新に直結する企画を完成させ、実務に即した応用能力を身につける。

#### ●到達目標

- ・学んだデータ分析・AIの知識を活用し、自身の業務に適したDX推進テーマを設定する。
- ・DX実践ケーススタディの洞察を基に、効果的なDX推進企画を立案する。
- ・ハンズオンで習得したツールのスキルを活かして、企画内でのデータ分析・AI活用の具体策を策定する。
- ・グループ内協働を通じて企画を精緻化し、実務適用のための企画を完成させる。

#### ●授業内容

時間数	授業内容
2.0	現在取り組んでいる業務の現状分析、課題の特定
4.0	グループ内での共有、テーマの絞込みとDX推進企画立案

#### ●受講形式

総時間	リアルタイム型 オンライン講義	オンデマンド型 e-ラーニング	現地 フィールド ワーク
6.0	3.0	3.0	3.0

(2)ITエンジニアコース・シラバス ⑧データ分析・AI活用実践力:プレゼンテーション

学習支援計画書（シラバス）

コース名	科目群名	科目名	
ITソリューション	グループワーク	データ分析・AI活用実践力：プレゼンテーション	
総時間	受講対象者	講師候補	
3.0	本科生	富山 孝治	
<b>●科目概要</b>			
<p>・この科目では、各グループがそれぞれのDX推進企画を発表し、他のグループからの質疑応答を受ける。このプロセスを通じて、発表者は自グループの企画を客観的に評価し、改善の機会を得る。同時に、聴講者は他グループの企画から新たなアイデアやアプローチを学び、自身の理解を深める。最終的に、参加者全員がこの交流からデータ分析・AIの実践的な応用に関する洞察を深め、全体の学びを総括する。</p>			
<b>●到達目標</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各自のグループが立案したDX推進企画を効果的に発表する。</li> <li>・他のグループからの質問やコメントに対して、適切に応答し、自企画の理解を深める。</li> <li>・他グループの発表内容から、データ分析・AI活用に関する追加の学びや異なるアプローチに気づく。</li> <li>・発表および質疑応答を通じて、自身の学びを再確認し、総括する。</li> </ul>			
<b>●授業内容</b>			
時間数	授業内容		
3.0	各グループによる企画発表 質疑応答～総括		
<b>●受講形式</b>			
総時間	リアルタイム型 オンライン講義	オンデマンド型 e-ラーニング※	現地 フィールド ワーク
3.0	3.0	0.0	3.0
※リアルタイム授業を録画して閲覧可能とする			

## ◎各科目群、科目の教材案の作成

- ・IT 利活用コースについては、8 科目の教材案を作成した。
- ・IT エンジニアコースについては、4 科目群の教材案を作成した。

### (1)IT利活用コース・教材案 ①観光地域づくり学 I



講師イメージ

テーマ	地域活性化の手法と考え方を知る	
講師	<b>井手修身氏</b> (イデアパートナーズ株式会社) <ul style="list-style-type: none"><li>・観光・まちづくりの総合プロデューサー</li><li>・総務省「地域活性化伝道師」</li><li>・全国で最大規模のバルイベント、「バルウォーク福岡」を仕掛ける</li><li>・「専門学校イデアITカレッジ阿蘇」校長</li></ul>	

講師イメージ

テーマ	九州パンケーキを通じたエリアブランディング	
講師	<b>村岡浩司氏</b> (株式会社九州テーブル) <ul style="list-style-type: none"><li>・九州産の農業素材だけを集めて作られた九州パンケーキミックスを中心に九州を掲げた商品を展開</li><li>・九州/沖縄の共創・共同体マーケティング「九州アイランドプロジェクト」の運営リーダー</li></ul>	

講師イメージ

テーマ	ビジネスを通じた農村活性化	
講師	<b>飯千敦志氏</b> (株式会社高千穂ムラたび) <ul style="list-style-type: none"><li>・宮崎県高千穂町で神秘的な自然や生活文化、農産物などの多様な資源を価値デザインし、住民共同の農村ビジネスを展開。</li><li>・農村ツーリズムの中間支援、食ビジネスや農村ツーリズムのマネジメントに関する調査も</li></ul>	

## (1)IT利活用コース・教材案 ②AI&ITツール利活用 実務



### Chat GPTが世界を変える

## Chat GPT

(チャットジーピーティー、Chat Generative Pre-trained Transformer)

オープンAIが開発した言語モデルで、テキストに基づいて対話できるAI。ユーザーの質問に文章で回答し、様々なトピックに関する情報やアドバイスを提供します。学習データに基づいてコンテキストを理解し、自然な対話を可能にします。

- ✓ 対話型の登場により、人工知能が民主化する
- ✓ 事務処理からの解放が進む(職がなくなる)
- ✓ インターネット検索のあり方が変わる

### Chat GPT活用の例

市長に挨拶してもらいたい英文を書いて  
・2023年11月20日  
・福岡駅前で開催される観光シンポジウム

尊敬する市長様

お世話になっております。私は、福岡駅前で開催される観光シンポジウムにおいて、貴重な時間を市長の貴職と共有する予定であり、この特別な機会に市長に挨拶したいことをより願っております。

この観光シンポジウムは、地域の魅力や観光資源に焦点を当て、地元の見聞と観光振興に向けた重要なイベントとなります。市長のご挨拶は、参加者にとっては大変な励みとなり、地域への希望と期待を高めることでもあります。

シンポジウムのスケジュールに合わせ、2023年11月20日に挨拶をしていただくと大変光栄であります。市長のご多忙を察しておりますが、お時間を割いていただけますと幸いです。

何卒ご都合がございましたら、お知らせいただけますと幸いです。どうぞよろしくお願い申し上げます。

敬具

[氏名(仮名)]  
[所属(仮名)]

### オンラインデザインツール: Canva

- ・ テンプレートをベースにして、パワーポイントのような操作感でおしゃれなチラシやバナーデザインができる
- ・ クラウドサービスのため、どのPCやスマホからでも編集&共有が可能
- ・ 無料でも利用可能(機能制限あり)
- ・ 画像生成AI機能なども内包している

何軒付けるワインぶどうの収穫をしてみませんか?  
ワインぶどう収穫体験

日時: 9月26日(火) 09:00~12:00  
※08:30中松高等学校集合  
参加費: 5,000円/人  
※赤ワインRED cow (3,900円) 1本プレゼント  
申込: 9月22日(金)までにWEBフォームにて

作成例(制作時間:約30分)

(1)IT利活用コース・教材案 ③デジタルマーケティング 実務



「デジタルマーケティング」の強み

- 1.アプローチ範囲の広さとターゲティングの緻密さ  
→世界中に対してOne to Oneマーケティングが可能
- 2.データ収集力とリアルタイム対応力の高さ  
→顧客行動をリアルタイムで把握可能し、試行回数を増やせる
- 3.拡散性の高さ(バズ・炎上、顧客発信)  
→UGCも含めて、共鳴効果で急速に情報が広がる
- 4.費用の安さ(1円~実施可能)  
→代理店を通さず運用可能、費用規模も細かく設定可能

プログラミング・WEB開発の多様化

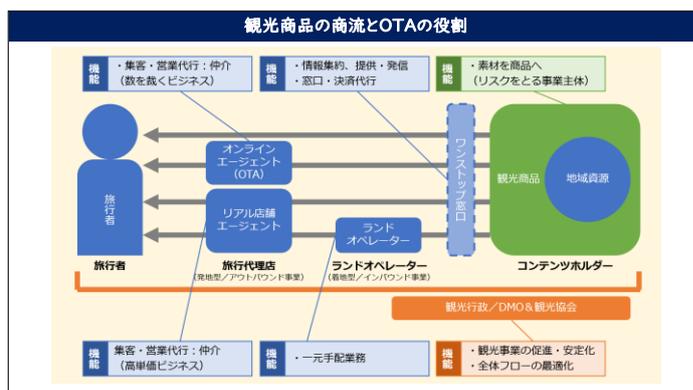
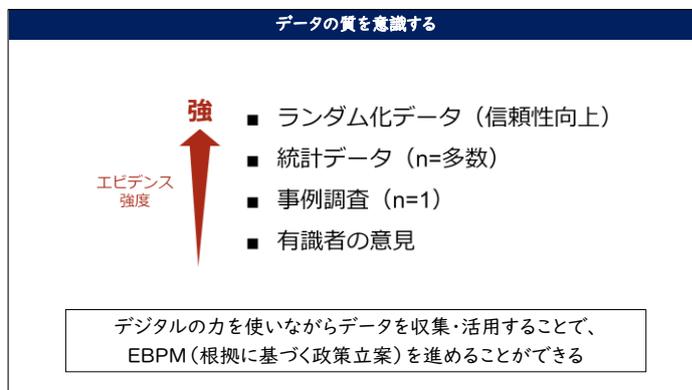
WEB開発の場合

名称	ノーコード No-Code	ローコード Low-Code	プロコード Pro-Code
定義	プログラミングを必要としない開発	プログラミングをほぼ必要としない開発	プログラミングを必要とする開発
難易度	低		
自由度			高
相場	年1万円~	1万~30万円程度	50万~150万円程度

WEB広告の必要性

WEBサイトやSNSの運用などのWEBプロモーションにおいて  
日常的な運用だけでは「拡散範囲」「成長スピード」に限界あり  
⇒お金の力で加速させる(=WEB広告)

(1)IT利活用コース・教材案 ④観光DX 実務





#### 企業広報の役割とは

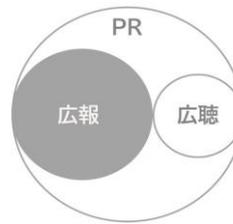
PRとはパブリック・リレーションズの訳語。

ただ、概念としては広報=PRではなく、  
広報はPRの一部とする考え方が国内では主流。  
PRは、商品の販促活動を指す「プロモーション」とも異なる。

PRとは、「広報」「広聴」の双方を含む概念。

広報は、さまざまな相手との関係を構築し、**戦略のもとで情報を発信する活動。**

対して広聴は、社会の声に耳を傾け、**自社の目指す姿や顧客のニーズを正しくとらえて社内に届ける活動**を指す。



#### プレスリリースとは

##### 企業とメディアを結ぶ基本ツール

##### 基本

- ・パッと見て分かる、目を引く。
- ・読みやすく、理解できる。

#### SNSとは?

SNSは、ソーシャルネットワーキングサービス (Social Networking Service) の略で、  
**登録された利用者同士が交流できる**  
Webサイトの会員制サービスのことで、  
友人同士や、同じ趣味を持つ人同士が集まったり、  
近隣地域の住民が集まったりと、  
**ある程度閉ざされた世界にすることで、**  
**密接な利用者間のコミュニケーションを可能**にしています。

総務省WEBサイトより抜粋

## (1)IT利活用コース・教材案 ⑥動画制作 実践



### 動画の有用性(強み)

- ❖ **圧倒的な情報量がある**
  - ・動画は静止画(写真)よりも圧倒的な情報を入れることができる
  - ・動画は視覚の情報+**聴覚の情報**も伝えられる
  - ・音楽、セリフ、リアクションなどで記憶に残りやすい
- ❖ **短い時間で情報を伝えられる**
  - ・静止画では写真が数枚必要な場合も動画なら数秒で伝えられる
  - ・「辛い! 熱い! 美味しい! 広い!」など状況を一瞬で伝えられる
  - ・短い動画が流行している現代と相性が良い

### 自社SNSでの動画活用の例



#### 当日の最新情報を投稿する

- ・「〇〇月〇〇日 今日もオープン!」などの投稿は一番大切な情報
- ・「本日〇〇名様限定! 特別プラン!」などの投稿は集客力が高い
- ・SNSアカウントが“生きている”状態

### 動画撮影時のポイント

③ **1つのカットは必ず10秒以上撮影する** 必要なのは忍耐!

#### 10秒の動画撮影イメージ



(1)IT利活用コース・教材案 ⑦地域課題解決 実践

Idea IT College Aso  
www.idea-college-aso.com

IT利活用コース

# 地域課題解決 実践

### 観光地経営の目指す姿

地域経済の活性化	地域の観光収入 = 観光客数 × 消費単価 × 域内調達率								
	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 観光地に対する認知・訪問意欲を高めて来訪者数を増加</li> <li>✓ 商品単価の向上、観光地内での周遊促進（消費機会の増加）</li> <li>✓ 域内資本での投資や域内での雇用・仕入れ増加で域内経済循環を活性化</li> </ul>								
地域への誇りと愛着の醸成	<table border="1"> <tr> <td>観光客</td> <td>✓ 「住んでよし、訪れてよし」の実現</td> </tr> <tr> <td>より良い 地域の未来</td> <td>✓ 「観光客」「事業者」「住民」が地域資源（文化や自然）を消費せず、共創して価値を高めていく状態</td> </tr> <tr> <td>事業者</td> <td>✓ 誇れるOnly 1のブランドアイデンティティの浸透</td> </tr> <tr> <td>住民</td> <td>✓ 保守と革新の調和</td> </tr> </table>	観光客	✓ 「住んでよし、訪れてよし」の実現	より良い 地域の未来	✓ 「観光客」「事業者」「住民」が地域資源（文化や自然）を消費せず、共創して価値を高めていく状態	事業者	✓ 誇れるOnly 1のブランドアイデンティティの浸透	住民	✓ 保守と革新の調和
観光客	✓ 「住んでよし、訪れてよし」の実現								
より良い 地域の未来	✓ 「観光客」「事業者」「住民」が地域資源（文化や自然）を消費せず、共創して価値を高めていく状態								
事業者	✓ 誇れるOnly 1のブランドアイデンティティの浸透								
住民	✓ 保守と革新の調和								

### 戦略的アプローチ

目的	目指すゴール像、あるべき姿
戦略	目的達成に向けた方針やシナリオ
戦術	目的達成に向けた具体的な方策
事業	戦術に基づくアクションプラン

目的達成から逆算して、効果的・効率的な戦略や事業を選択していく

### 対話型コミュニケーションとファシリテーション

価値観の細分化が進んだことにより  
**「正義」と「正義」が衝突する時代へ**

お互いの意見・立場を尊重し合いながら  
お互いが納得できる答えを導き出すための  
**「新しい」コミュニケーション手法が必要に**

「対話に基づくコミュニケーション」が重要に  
場づくりの専門性（ファシリテーション）が必要に

(1)IT利活用コース・教材案 ⑧復興と観光地域づくり 実践

Idea IT College Aso  
新設校舎 4F21210-10号棟

IT利活用コース

# 復興と観光地域づくり 実践



被災から創造的復興へ

## 元に戻さない

元々苦戦していた事業が、周回遅れて復旧しても戦えない

# 創造的復興

Build back Better

## (2)ITエンジニアコース・教材案

### 科目群①DX推進におけるデータ分析・AI活用の役割



Idea IT College Aso  
専門学校 アイデアITカレッジ阿蘇

## DX推進における データ分析・AI活用の役割

観光DXの実践事例に基づく  
データ分析・AI活用実践力強化

### 生成AIにおける「プロンプト力」

プロンプト力とは、  
AIに対してどのように命令を出し、  
求める情報や結果を得るための指示を行う能力。

生成AIでは特に、正確で具体的なプロンプトが重要で、  
これによりAIの応答の質が決まる。

プロンプト力を高めるには、  
AIの機能理解と試行錯誤を繰り返す実践が必要。

### 生成AIにおける学習とプロンプト

#### ■ 客観値だけでない学習と、それを引き出すプロンプト

下記の例)

- ✓ 阿蘇地域の定点カメラ画像+雲海評価観点+主観評価点数にて「雲海指数」を学習
- ✓ 「画像」を入力とし、プロンプト（上記観点にて、入力画像の主観評価）にて雲海指数を出力

#### 学習フェーズ

##### ①評価観点

観景の広がり 本観景から見たときの視界の広がりがどれほど範囲に広がっているか。  
その広がり、遠景の山並みはどのくらい見えるか。

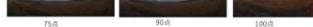
雲の密度が薄く、空気感を感じ、雲海が遠くまで、雲海が遠くまで広がるか。

色彩 目の色や空の色に差が出る雲海の色の変化。

本観景の広がりによって見える雲海の色の変化、空と山のコントラスト。

地形との構図活用 阿蘇の地形の地形、特にみんぞう山と雲海との関係性、それを引き出す構図の活用。

##### ②主観評価



0点 10点 50点 75点 90点 100点

#### プロンプト（雲海指数の算出）



(出典) アイデアITカレッジ阿蘇 ケイ、市原「仙気満々ガイドサービス」、2024.2. Connet熊本会議における発表資料から抜粋

### データの整理・要約・関連の整理

要約の例) ワードクラウド

- ✓ テキストのデータを視覚化し、よく使われる単語を大きく表示するグラフィック表現。
- ✓ 単語の頻出度に応じてサイズが変わり、一目でキーワードを把握できる。
- ✓ データ分析やプレゼンテーションで使われ、情報の傾向を直感的に理解するのに役立つ。



例) みなみあそ観光局による、Xへの2024年1月から3月の投稿に関するワードクラウド

## (2)ITエンジニアコース・教材案 科目群②DX実践ケーススタディ



# DX実践ケーススタディ

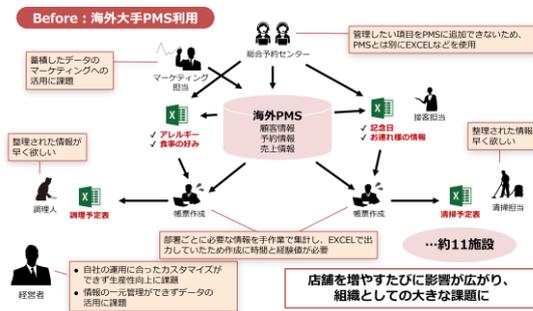
観光DXの実践事例に基づく  
データ分析・AI活用実践力強化

### 宿泊業界向けの顧客情報管理システム「陣屋コネクト」：運用効率化と顧客満足度を向上

- 導入前の業務プロセスの詳細な評価  
具体的な業務プロセスの問題点を理解することが、改善策を見つける鍵となる
- 技術導入後の変化の定量的評価  
成功を測定するために、どのように業務効率や顧客満足度が改善されたかを具体的な数値で評価する必要がある
- スタッフとのコミュニケーション  
技術導入にあたってスタッフの意見をどのように取り入れ、また導入後にスタッフのモチベーションを維持・向上させるかが重要
- 将来的な拡張性と適応性  
導入したシステムが将来のビジネスの成長や変化に柔軟に対応できるかも重要なポイント

2

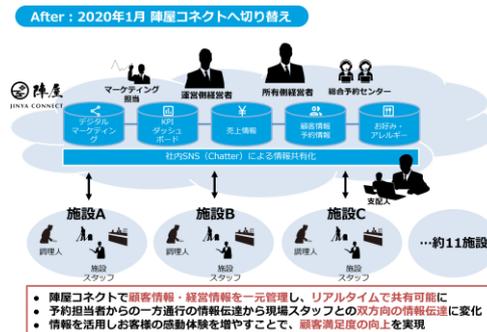
### 「陣屋コネクト」導入前の問題点・課題



(出典) [https://www.jinya-connect.com/databox/data.php/case-study-05\\_ja/code](https://www.jinya-connect.com/databox/data.php/case-study-05_ja/code)

3

### 「陣屋コネクト」導入後の効果



(出典) [https://www.jinya-connect.com/databox/data.php/case-study-05\\_ja/code](https://www.jinya-connect.com/databox/data.php/case-study-05_ja/code)

4

## (2)ITエンジニアコース・教材案 科目群③トレーニング・データ分析



Idea IT College Aso  
専門学校 アイデアITカレッジ阿蘇

# トレーニング・データ分析

観光DXの実践事例に基づく  
データ分析・AI活用実践力強化

### 可視化ツール（ビジネスインテリジェンスツール）

- データを可視化するためのツール（ビジネスインテリジェンス(BI)ツール）  
企業が膨大なデータを効率的に分析し、視覚的にわかりやすい形で情報を提示するソフトウェア
- BIツールの目的  
より迅速かつ根拠に基づく意思決定を行う
- BIツールの機能  
データの集約、分析、ダッシュボード作成、レポート生成など

代表的な可視化ツール

Tableau	直感的な操作で強力なデータビジュアライゼーションを提供。
Power BI	マイクロソフト製で統合性が高く、使いやすいインターフェース。
Qlik Sense	ユーザー主導型の探索と可視化機能が特徴のBIツール。
SAP BusinessObjects	大企業向けにスケーラビリティと包括的な機能を提供。
Looker	データの統合とビジュアライゼーションに強み、Google Cloud Platformとの連携が可能。

2

### BIツールの活用方法

#### 直感的なUI/UX



- ・ 直感的で使いやすい
- ・ データが可視化する結果(事実)を見ながら、目で考えながら手を動かして様々な角度から分析する一連の「フロー」を実現

#### 統合プラットフォーム



- ・ 「データに基づくコミュニケーション」(データドリブン)文化を醸成しやすいプラットフォーム製品群をご用意
- ・ 大規模でのご利用を想定したガバナンスとセキュリティ機能も標準搭載

#### ユーザコミュニティ

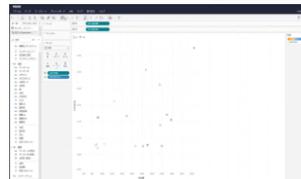
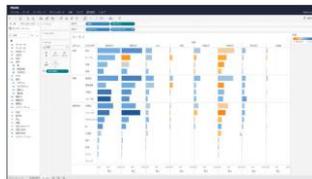


- ・ 500+のユーザーグループ(国内30)を展開
- ・ お客様同士で密な情報交換を自由に行っていただける「場」を提供

(参考画像) Tableau Webサイトから抜粋 <https://www.tableau.com/>

3

### BIツールでの様々な整理手法（図の作成）



(参考画像) Tableauによるビジュアル分析 <https://www.tableau.com/ja-jp/learn/webinars/introduction-visual-analytics-tableau-p-2021-10>

4

## (2)ITエンジニアコース・教材案

### 科目群④グループワーク・プレゼンテーション



## グループワーク・プレゼンテーション

観光DXの実践事例に基づく  
データ分析・AI活用実践力強化

#### グループワークの位置づけと価値

- デジタルトランスフォーメーションへの理解  
実務に即したDXの基礎と応用を深める
- 戦略的思考の育成  
データ分析・AIを活用した問題解決能力と  
戦略立案力を養成
- 協働による革新  
異なる背景を持つ受講者間での協力を促し、  
クリエイティブな解決策を生み出す
- 実践的スキルの獲得  
ハンズオンで習得したツールを使い、  
企画を実務に適用する能力を強化
- 組織全体への影響  
受講者の学びが組織全体のDX推進に貢献し、  
業務改善に繋がる



2

#### ワークシート1 DX推進企画

項目	内容	要点
メンバー	名前、所属、DXに関する経緯	参加者の背景理解とコラボレーション促進しよう
現状分析	全員の業務分析、DX適用可能領域	業務プロセスの理解と改善ポイントを特定しよう
テーマ設定	グループでのDX推進テーマ	より具体的な企画テーマを決定しよう

3

#### ワークシート2 企画発表とフィードバック

項目	内容	要点
企画概要	提案内容、目標、期待効果	企画の核心部分
質疑応答	他グループからの質問、提案	精進の強化と多角的な視点の取り入れ
今後の方向性	フィードバックを踏まえた改善策	企画の精緻化と実行計画

4

## ⑥ 実施モデル検討項目の整理

リカレント教育用の講座実施モデルのプロトタイプ構築及び次年度以降の実証授業の実施に必要となる日程、時期、期間、実施形態、受講者理解度など検討事項を整理する。

### 【コース】

- ・IT 利活用コース 3 科目群、8 科目
- ・IT エンジニアコース 4 科目群、8 科目 合計 16 科目

### 【受講者数】

- \* R6 年度:①IT 利活用コース:本科生 12 人、聴講生 28 人、合計 40 人
- \* R7 年度:①IT 利活用コース、②IT エンジニアコース  
本科生 各 15 人、小計 30 人、聴講生 40 人、合計 70 人

### 【受講生の募集】

- ・IT 利活用コース:本校で既に提携している注文式教育企業(20 社)、  
R5 年度企業ニーズ調査で協力いただいた、熊本県旅館ホテル生活衛生同業組合、熊本市観光旅館ホテル協同組合、九州観光推進機構、九州運輸局、黒川温泉観光旅館協同組合を通して、DMO、観光協会、宿泊施設に働きかける。
- ・IT エンジニアコース:本校で既に提携している注文式教育企業(40 社)、  
R5 年度企業ニーズ調査で協力いただいた、熊本県情報サービス産業協会、熊本県デジタル戦略局デジタル戦略推進課を通して、情報サービス企業に働きかける。

### 【開催時期】:令和 6 年 6 月～11 月 ①IT 利活用コース

令和 7 年 6 月～11 月 ①IT 利活用コース、②IT エンジニアコース

### 【授業形式と時間】:

- ・IT 利活用コース :合計 30 時間、  
・リアルタイム型オンライン講義 7.5 時間  
・オンデマンド型 e-ラーニング 9.5 時間 ・現地開催 13.時間
- ・IT エンジニアコース:合計 36 時間、  
・リアルタイム型オンライン講義 16.5 時間  
・オンデマンド型 e-ラーニング 7.5 時間 ・現地開催 12.時間

### 【実施形態】:

- ・基本は両コースとも、平日夜にリアルタイム型オンライン講義で開催する。質疑・意見交換会を付ける。(ただし、受講できなかった方に対して、リアルタイム授業を録画して閲覧を可能とする。

オンデマンド型 e-ラーニングは、e-ラーニング動画教材を別に設ける。

阿蘇での FW や集合型の講義は、土日に開催する。

また、IT 利活用コース選択科目(SNS&PR、動画制作)は、宿泊施設で働いている人もターゲットにするので平日の日中に開催する。

### ○事業を実施する上で設置した会議

会議名	観光 IT リカレント教育部会		
目的・役割	業界団体・企業、行政、教育機関からなるメンバーで委員を構成し、本事業の進捗に関するアドバイス、IT 利活用コース、IT エンジニアコースのリカレント教育のカリキュラム、シラバス開発、講座実施に関する助言をいただいた。		
検討の具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リカレント教育アンケート調査、ヒアリング調査の設計内容や手法についての助言。</li> <li>・IT 利活用コース、IT エンジニアコースのカリキュラムの全体方針への助言。</li> <li>・IT 利活用コース、IT エンジニアコースのシラバスの開発支援。</li> </ul> 具体的に科目名、コマ数、担当、学習目標、科目内容、学習単位、事前学習等。 ・来年度の講座実施に必要となる講師体制、実施形態、受講者、理解度の指標など検討事項を整理した。		
委員数	11人	開催頻度	今年度3回開催

### 観光 IT リカレント教育部会の構成員(委員)

	氏名	所属・職名	役割等	都道府県名	旅費
1	井手 修身	学校法人アイデア熊本アジア学園		熊本県	
2	永田 祐介	熊本県旅館生活衛生同業組合	観光 IT 利活用	熊本県	○
3	久保 堯之	一般社団法人みなみあそ観光局	観光 IT 利活用	熊本県	○
4	富山 孝治	熊本県情報サービス産業協会	IT エンジニアコース	熊本県	○
5	田中 旬一	学校法人せとうち日本 IT ビジネスカレッジ	専門学校	岡山県	○
6	赤山 聖子	学校法人赤山学園	専門学校	熊本県	○
7	岩木 健	南阿蘇 IT バレー協議会	IT エンジニアコース	熊本県	○
8	北山 元	黒川温泉観光旅館協同組合	観光 IT 利活用	熊本県	○
9	小野田 金司	大阪観光大学	観光 IT 利活用	和歌山県	○
10	今村 新	NX商事株式会社経営企画部 DX 推進室	IT エンジニアコース	東京都	○
11	受島章太郎	熊本県 デジタル戦略推進課	行政	熊本県	

会議名	第1回 リカレント教育部会		
日時	令和5年10月19日(木) 15時30～	場所	南阿蘇村 ICT 交流センター
出席者	リアル出席：井手修身、◎岩木 健、○永田 祐介、◎久保 堯之、 受島章太郎、○小野田金司、今村新、○北山 元、○富山孝治 (◎謝金、交通費対象者、○謝金対象者) 事務局出席：鈴木 俊良、菅 彰彦、藤井 幹子、堀口 奈美、野津 周平、		
議題	①事業の概要説明 ②意見交換のポイント ・リカレント教育の企画素案 ・人材育成に関するアンケート調査 ③スケジュール		
議事内容	<p>1. 事業の概要説明</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・別紙企画概要書</li> <li>・関連補足資料 全体で15科目を想定。</li> </ul> <p>・ターゲットについては、調整中。次の項目にて議論。  ・R6年度以降に実施フェーズに移り、R7年度に他校でも活用できるように整えていく。  ○意見交換のポイント</p> <p>①リカレント教育の企画素案</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習のターゲット、目指すべき人材像(企業、業界が求める人材ニーズ像)</li> <li>・対象者のレベル(当該プログラムの基礎知識の有無、異業種からの転職希望者、)</li> <li>・各コースのカリキュラム、科目設定(科目、受講時間、日時、受講形式)</li> </ul> <p>②人材育成に関するアンケート調査</p> <p>セキュリティ・モラルコンプライアンスについて学ぶ科目を入れてはどうかと思っている。  ターゲットはデータサイエンティスト、ソフトエンジニア※添付資料の別表より。  今村さま)外から見てもスキルが分かるように提示し、生成AIに関しても現在ニーズが高いと考えられるので入れ込んでいる。公的試験との関連も盛り込んでいる。</p> <p>井手)今回は85時間を設定し、対面型を多く盛り込んでいる。内14～15時間はIT利活用と一緒に学ぶ時間。  富山)データビジネスの基礎から始まるのか、データサイエンティストの全体的な話なのか。→全体的に設計している。ツールについては決まっているのか。→まだ未定。  今村)経営側が見て判断できるまでデザインし見せる活用ができる方がいい。ただし、以下の懸念点がある。  ・講座の時間数:基礎的なこと(ツールをセット、使い方)から上記のところまで見込むと結構な時間数が掛かる。  ・観光につなげると地元のデータから面白い事が見えるのでは。シナリオはある程度描いた方がいい。  岩木)自社で考えると、生成AIなどにも興味があるが最終のゴール(どうある方がいいのか)を見つけ切れていないので、そこを見つけ出せるといい。  受島)どこでどんな人材を使うのかという人材像が重要と感じる。行政のデータを市町村でも使えるようにオープンデータ化しようとしている。防災・観光がキーワード。使えるのであれば提供可能。逆に要望があれば、オープンデータ化に繋がる。</p> <p>■本当に企業から学ばせに行きたいカリキュラムなのか。  富山)パッと見ると南阿蘇の課題解決ということが目に入るので、関係ないかなと感じてしまう節もある。なので、具体的に学べる内容が分かる方がいい。  菅)具体的な活用イメージを想定したストーリーを創る必要があると感じている。</p> <p>■IT利活用コース</p> <p>久保)ITを活用する人材は圧倒的に足りていない。しかし、宿泊事業者とDMO等の実務ではニーズが異なる。  →需要が高まっているマネジメント系人材、またはそこへ転職したい方にフォーカスする。  中身としては、DMO・自治体・観光関連事業者をターゲットとし、実践スキルは宿泊業事業者もターゲットとする。  両者の割ける時間数も異なるので、その面も考慮。  永田)宿泊業が求めるITスキルとDMOなどが求めるITスキルは異なると感じる。宿泊業では、国内国外をターゲットとしたときのPRなども求められると感じる。最近では台湾からのニーズはあると感じており、阿蘇市等に直接講座を学びに行ってもらっている。  北山)整理できていると感じた。DMOだとマーケやブランディングが重要。方法だけ学ぶのではなく、実践もあるといい。SNSマーケはコロナを経てニーズが上がっているの、興味があるところが多いのでは。  今村)受講生の数については、想定があるのでしょうか？  →来年各コース15名を招集予定。DMOだけでは枠が少ないので、地域おこし協力隊や、道の駅などの地域観光で実務をされている方も対象としながら進める予定。九州圏ではなく、幅広いエリアで募集したい。阿蘇に来るのは2回だけでもOKな構成を見据えている。東京在住者で地域にUターンする方などにも学びに来てほしいと考えている。  小野田)小野田さま)大学は不自由なこともあるので、専門学校でマーケットのニーズに答えてもらえるといい。プロモーションとプレイスについて1週間くらい阿蘇に行って学ぶ機会があるといいなと思う。  ○スケジュール 次回日程 12月14日(木) 14時～</p>		

会議名	第2回 リカレント教育部会		
日時	令和5年12月14日(木) 15時30分～	場所	南阿蘇村 ICT 交流センター
出席者	リアル出席 : 井手修身、○岩木 健、○永田 祐介、○久保 堯之、 受島章太郎、○小野田金司、○今村新、○北山 元、○富山孝治 (◎謝金、交通費対象者、◎謝金対象者) 事務局出席 : 鈴木 俊良、菅 彰彦、藤井 幹子、堀口 奈美、野津 周平、		
議題	①アンケート調査結果の報告 ・企業リカレント教育 アンケート調査結果 宿、DMO,IT 企業 ・受講求職者 就職者リカレント教育 アンケート結果 ②リカレント教育科目について意見交換 ③スケジュール		
議事内容	<p>①アンケート調査結果の報告を行う</p> <p>■意見質問等</p> <p>○IT利活用コース</p> <p>永田) 人手不足の前に、雇用改善やマネジメントの意識を変えないと一生涯環境は変わらない、とあの場で発言したが、理解していたのは少数だった。</p> <p>北山) 人的、金銭的な余裕のある宿と、余裕のない宿で二極化している。</p> <p>組合が実施している人材育成事業に参加している宿は、余裕がある宿。余裕のない宿の構造をどうやって変えていくかが問題。</p> <p>小野田) アンケート結果は興味深い。現状十和田DMOでもマーケティング人材の募集を長らく行っている。こういったスキルを内部で育てるのは難しい面もある。育成だけでなく採用も大事。</p> <p>○ITエンジニアコース</p> <p>今村) 観光に携わっているIT企業が少ないのが意外だった、増えているように感じていた</p> <p>富山) 製造流通が多いのは熊本の特徴だと思う。観光に関してはひも付きの大手企業の存在もあり、もともと関りが少ない。</p> <p>今村) うまく場を作れば、新たな取り組みにはつながりそうな気がする。</p> <p>受島) 中小企業のDX推進について、県外の大きなコンサルが関わると、費用が掛かりすぎなどマイナスの面も多い。県の事業をサポートする地場企業の掘り起こしも県の仕事として重要だと考えている。</p> <p>■ITエンジニアコースのカリキュラム内容の見直しについて</p> <p>・当初70、80時間程度で考えていたカリキュラムの延べ時間について ⇒アンケートを踏まえ30～40時間に半減。リアルの場合は1～2日で考えている</p> <p>・対象者⇒対象者を拡大。間口を広くとりSEに加え営業や一般職も対象にする</p> <p>・内容⇒企画力プロマネ力、課題解決力ニーズへの対応した内容に変更</p> <p>・研修内容⇒課題解決力の強化に軸足を微調整。</p> <p>・終了後の参加者コミュニティの実践をフォローし、実践編につなげるなどの仕掛けを検討</p> <p>富山) カリキュラムで使用する特定のツールは何かあるか</p> <p>菅) 確定していないが、阿蘇のデータを使って、特定のツールを利用する想定</p> <p>富山) ツールを使うなら時間がタイトな気がする。実体験として、自身が参加した研修でツールを使う際は時間がかつかつであった。工夫する必要がある。</p> <p>富山) 行政が公表しているオープンデータを取り入れるべき</p> <p>岩木) データに関してもどうやって整理するかなど含めて考える。</p> <p>■IT利活用コースのカリキュラム内容の見直しについて</p> <p>・当初60時間を想定していたカリキュラムの延べ時間について⇒アンケートを受け、全体20～30時間程度に変更</p> <p>・ターゲット層について⇒観光地域づくりの現場で地域貢献をしたく、自費で学びに来る方(現役、新規参入含む)。</p> <p>行政が研修を行っている現状があり競争が多いため、ポテンシャルがある層を取りに行きたいと考え、自主的に参加する層をターゲットに設定。</p> <p>小野田) 良いプログラム内容だと思う。有名な講師をラインアップすると自然に集まるが、若い子に本当に学んでほしいのはこういうスキル。最初に合宿してコミュニティを作るといのは良い仕掛け。</p> <p>小野田) デジタルの活用技術を持ち帰れたら強みになる。</p> <p>永田) 興味がある職員たちの力を伸ばすような内容になっていると思う。また、入社1、2年目の職員も受けられる内容になっている。</p> <p>北山) すべて受ける必要があるのか？</p> <p>久保) 構成次第だが、聴講的な枠も作りスポットで受けられるようにしようと考えている。</p> <p>北山) 柔軟な方が良い。時間や興味、必要スキルに応じて選べるように。時間が夜開催なのは、仕事の都合を考えたも良いと思う。</p> <p>久保) 開催スケジュールについては「1回くらいなら宿泊できるのでは」という感覚で作成した。悩ましいところではある。</p> <p>菅) 短縮したこともあり時間的には厳しい部分もある。</p> <p>鈴木) 授業で接点を持たずとも、同会場で授業を開催している日に交流会を実施するといった仕掛けもできるのではないか。</p> <p>井手) カリキュラム開始日の半日だけでも一緒にやる仕掛けが作れると、わざわざ阿蘇に来る価値にもなると思う。</p> <p>実際、IT企業へのヒアリングの際も、他業種と交わりたいたいというニーズがあった。</p> <p>井手) IT利活用の方も、題目として「生成AI」という文言を入れると引きがあると思う</p> <p>久保) 観光系の実務でも使い道があるので、ありだと思う</p> <p>久保) 人数の規模感は認識をそろえておく必要がある</p> <p>○スケジュール 次回3回目 2月22日開催予定</p>		

会議名	第3回 リカレント教育部会		
日時	令和6年2月22日(木) 11時15分～	場所	南阿蘇村 ICT 交流センター
出席者	リアル出席 : 井手修身、◎岩木 健、◎永田 祐介、◎久保 堯之、 ◎小野田金司、◎今村新、○北山 元、○富山孝治 ◎赤山聖子、○田中旬一、(◎謝金、交通費対象者、○謝金対象者) 事務局出席 : 鈴木 俊良、菅 彰彦、藤井 幹子、堀口 奈美、野津 周平、		
議題	①今年度の事業経過の報告 ・IT利活用コース 構成と科目案 ・ITエンジニアコース構成と科目案 ②意見交換 ・R6年度事業計画 リカレント教育実証授業		
議事内容	<p>○過去コースの構成と科目について変更を説明。 ○IT利活用コースの内容について意見交換</p> <p>小野田)自身が関わる事業において、開催する時間帯などのアンケートを取った。結果、オンライン開催に関しては平日夜間。実地に赴く研修としては平日1泊を希望する回答が多かった。また実地研修に関しては先進地に行きたいという希望が多かった。DMOとしては平日の方が人を出しやすと思う。土日はイベントなどと重なる可能性がある。科目については非常に良いと思う。PR・SNS実践などはすぐにでもうちの職員に受講させたいくらい。</p> <p>永田)宿のスタッフが参加するにあたっては、現場のスタッフでなくマネジメントをしている立場の人間(経営者層もしくは現場のリーダー層)が参加しないと意味がないと思う。DX化を進めなければいけない根本理由は業界的な生産性の低さを解決するため。そういった改革を行うための知識は経営者層に落とし込んでいかないといけない。</p> <p>北山)内容は素晴らしいと思った。DMOの職員を呼ぶのであれば、「持続可能な観光」という視点を盛り込む、また他産業との連携や産学官連携の内容も入れてもらえるとうズに答えられると思う。</p> <p>富山)内容は良いと感じる。今の世の中、動画の作成というのはかなり身近になっており、外部委託なども簡単にできる時代。それよりも必要なのはデジタルマーケティング的な視点での活用能力だと実感している。</p> <p>鈴木)担当講師が未記載の授業は誰を想定しているか？ 井手)まだ検討中だが、久保さんに頼り切りにならないようにしたい。オムニバス形式の授業を入れたのは講師の偏りをなくす意味もある。PR実践については実施時期次第では廣瀬さんを考えている。</p> <p>○ITエンジニアコースの構成及び科目案について 菅)全体は40時間を想定 ・IT利活用コースとの共通科目をなくしたため、その分専門分野の授業を設定している。 ・コースの総括講師として富士通研の門岡さんを予定している。</p> <p>今村)(補足として)「なぜ阿蘇というフィールドか」という部分については、こちらで農業や観光にまつわる素材やテーマを用意しておき説得力をもたせる必要がある。</p> <p>田中)時間配分について、例えば3-1の講義は8時間とあるが、どういった配分を想定しているのか 菅)資料に書いてある通り、eLearningで5時間、残りの3時間を対面ハイブリッドで平日夜間に行う想定でいる。</p> <p>田中)eLearningはどういった時間配分になるのか 菅)5時間の教材を用意しているわけではなく、自己学習の時間も含めて5時間程度必要だろうという想定で設定している。</p> <p>岩木)自己学習の時間を含めての時間カウントは報告書的にも難しいと思う。あくまで時間として設定するのは教材の受講時間になるのではないか。そのあたりIT利活用とも考え方を合わせていく必要もあると思う。</p> <p>富山)我々はtableauしか使っていないので他のツールは難しいが、tableauであれば支援ができると考えている。実際にtableauの研修にも出たことがあるが、一通りツールを使ってみるというレベルであれば8時間で足りると思う。もう少し詳しくやろうと思うと、自分でプログラミングをしなければいけなかったりするの、時間がかかる。</p> <p>小野田)大きく3つの科目群に分かれているが、本科生・聴講生についてはどういった扱いの認識か 今村)基本的には聴講生の設定は考えていない。「何かしらスキルを身に着ける」という点が本コースのポイントなので、基本は一気通貫で受講してもらう必要があると思う。</p> <p>ただ1-1~3の科目については内容的に単発での聴講も可能だと思っている。</p> <p>小野田)IT利活用コースと合わせるためにも、聴講生コースは設定していただけるとありがたい。</p> <p>井手)受講生を送り出す企業側として、40時間という設定はどう感じるか？ 岩木)おそらく土日が含まれると手を挙げる人が少なくなると思う。基本は平日夜に少しずつ進めていくイメージ。企業として本事業を扱う際は補助金と組み合わせる感じになると思う。就業中に組みませるのではなく、あくまで企業側は受講料の面でサポートし、社員は就業時間外に受講するイメージ。厚労省で7割補助の制度がある。</p> <p>富山)新入社員~2, 3年目の社員にはニーズがあると思う。ただ、現場の構造的な問題で、情産協から案内すると現場に周知されない恐れがあるため、案内は企業に直接出した方が良いと思う。</p> <p>菅)企業目線で2泊や3泊の集中研修というのは現実的に感じるか？ 岩木)中堅を呼ぼうと思ったら難しいだろうが、若手社員であれば可能性はなくはないかもしれない。</p> <p>今村)関東在住者など県外の方が興味を示す内容になっていると思う。県外からの研修であれば、1泊2日であれば送り出す企業側としても可能性はあるのではないかと考えている。</p> <p>○まとめ ・令和6年度の事業は6月ごろの採択になる予定。委員の皆様には継続していただきたく考えている。今後もよろしくお願ひしたい。</p>		

## ○事業を実施する上で実施した調査

### ■リカレント教育・企業ニーズ調査(企業側)

調査名	①IT活用コース【DMO,宿泊施設,団体】	①IT活用コース【DMO,宿泊施設,団体】
目的と手法	宿泊施設の事業者がIT活用の既存従業員に対してのリカレント教育の導入状況とニーズの実態を把握する。 また、異業種からの転入者のスキルの要件も合わせて把握する。	DMO、観光振興団体の事業者がIT活用の既存従業員に対してのリカレント教育の導入状況とニーズの実態を把握する。また、異業種からの転入者のスキルの要件も合わせて把握する。
実施数	【宿泊事業者】 アンケート調査 51件、 ヒアリング調査 4件	【DMO、観光振興団体】 アンケート調査 22社、 ヒアリング調査 4件、
調査対象	阿蘇 蘇山郷、有限会社地獄温泉清風荘、熊本県旅館ホテル生活衛生同業組合、熊本市観光旅館ホテル協同組合、	㈱くまもとDMC、黒川温泉観光旅館協同組合、みなみあそ観光局、株式会社有田まちづくり公社
(1)求める人材の職種	【職種】◎スタッフ人材：専門の人材の下で実務を行う職員。企画・営業できるプランナー人材。 ◎客室係、接客、フロント業務を並行して複数できるマルチスタッフ人材。	【職種】◎スタッフ人材：専門の人材の下で実務を行う職員。企画・営業できるプランナー人材。
(2)会社としての従業員への「人材育成」導入・実施状況、人材育成の必要性、	・IT活用の「人材育成」必要性や導入について ・IT利活用人が既にいる14%、今後育成していきたいが40%となった。 ・過去1年間で「人材育成」を実施した34%。必要であり、今後検討したい66%にのぼる。 ・「人材育成」は、マネジャークラス、入社数年目までのマルチタスクスタッフに求める。	・IT活用の「人材育成」必要性や導入について ・IT利活用人が既にいる32%、今後社内で育成していきたい50%と宿泊に比べると高い。 ・過去1年間で「人材育成」を実施した55%。必要であり、今後検討したい95%にのぼる。県や観光庁の事業で人材育成する機会が多いのも結果に表れている。 ・「人材育成」は、入社数年目までのスタッフには是非100求めたい、課長・マネジャークラスにも81%と高い。
(3)人材育成に求める能力やスキル	重要視するのは、[対課題]情報収集、分析力、業務遂行力、企画発想、計画力である。 [スキル]では、マーケティング力、SNSの活用・集客、動画・写真編集力、ホスピタリティ知識である。	重要視するのは、[対課題]情報収集、分析力、業務遂行力、企画発想、計画力、 [スキル]ではマーケティング力を重要視する。続いてSNSの活用・集客、動画・写真編集力である。 地域観光マーケティングに必要なスキルも高い。
(4)人材養成プログラムの時間、コスト、費用負担	・社外で実施するオンライン研修、講義が高く、次いで社内で社外講師を招へいしての研修、講義が高い。 ・時間は、半日(3-4h)程度38%、1~2日間(6~12h)程度13%、数回(20~30h)程度17%で、現実的に半日~1日程度が費やせる時間。 ・コスト負担は、会社負担29%、行政、組合等が主催で無料41%、個人一部負担4%である。	・社外で実施するオンライン研修、講義が高く、次いで社内で社外講師を招へいしての研修、講義が高い。 ・時間は、半日(3-4h)程度30%、1~2日間(6~12h)程度34%、数回(20~30h)程度30%で、1日~数回で10h~30h程度が費やせる時間。 ・コスト負担は、会社負担38%、行政、組合等が主催で無料48%、個人一部負担10%である。
(5)IICAが開発するリカレント人材養成プログラムについて	・既存従業員のスキルアップとして、条件次第で受講・導入してみたい18%、今後、検討していきたい38%。 ・新入社員の導入研修として、条件次第で受講・導入してみたい12%、今後、検討していきたい34%。 ・日時や時間次第では導入はできる。 ・旅館組合等で開催することは考えられる。	・既存従業員のスキルアップとして、条件次第で受講・導入してみたい32%、今後、検討していきたい36%。 ・新入社員の導入研修として、条件次第で受講・導入してみたい18%、今後、検討していきたい46%。 ・導入に対しては、前向きである。 ・県や九州運輸局との連携で開催することは考えられる。
(6)IICA、リカレント教育に対するの要望や期待	・SNS&PR実践、OTA活用などは即実行してみたい。 ・スキルアップをしたいが、人によってしたいスタッフとそうでないスタッフがいるのが悩み。 ・全体でスキルアップ出来たら、旅館としてハイクラスを目指せると考えているので、関心がある。 ・外国人の雇用上のマネジメントを学ぶ機会がほしい。 ・派遣の外国人人材等に活用できる研修などあれば有難い。	・DMOでは、ビックデータ活用が求められているので関心がある。 ・CRM(カスタマーリレーションシップ)による顧客満足度向上に対する内容も関心がある。 ・SNS&PR実践、動画制作実践、地域課題解決実践、の科目には大変関心がある。 ・地方創生とマーケティングは重要なテーマである。

調査名	②ITソリューションコース（観光業を支援するIT企業）
目的と手法	観光業界に関心があるITシステム開発、WEB制作等の事業者が既存従業員に対して、ITエンジニアコースのリカレント教育の導入状況と、ニーズの実態を把握する。
実施数	【情報サービス事業者、情報サービス産業団体】 アンケート調査 25社、 ヒアリング調査6社
調査対象	ソフトウェアビジョン(株)、(株)システムフォレスト、(株)九州ソフタス、(株)ヒューマンテクノシステムホールディングス、株式会社KIS、熊本県情報サービス産業協会、
(1)求める人材の職種	【職種】◎開発エンジニア ◎フロントエンドエンジニア ◎クラウドエンジニア ◎フィールドエンジニア ◎データエンジニア ◎セキュリティエンジニア ◎DXビジネス企画と人材が多岐にわたる。
(2)会社としての従業員への「人材育成」導入・実施状況、人材育成の必要性、	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エンジニアの「人材育成」必要性や導入について</li> <li>・過去1年間で「人材育成」を実施した80%であり、今後の導入予定を入れると92%で、エンジニアのスキルアップは必須となっている。</li> <li>・社内での情報系の資格取得が、報酬や役職にも紐づいていることも大きい。</li> <li>・スペシャリストよりゼネラリスト（知識や技術が広範囲にわたる）思考を望む。その上で、スキルとして、一定のプログラミング知識、ネットワーク知識、デジタルマーケティング知識等は必要である。</li> </ul> ◎「データサイエンティスト」の人材育成ニーズについて <ul style="list-style-type: none"> <li>・重視しており人材育成に取り組んでいる28%、今後検討する36%と「データサイエンティスト」の人材育成を64%が重要視していることがわかった。</li> </ul>
(3)人材育成に求める能力やスキル	[対課題]プロジェクトマネジメント力【】が特に高く、コミュニケーション力、リーダーシップ力、情報収集・分析力、企画発想・計画力が高い。 [ITスキル・知識]では、テスト・開発プロセス知識、ビッグデータ収集・解析、セキュリティ知識が重要視されている。 プログラミング知識、テスト・開発プロセス知識、ネットワーク知識も求められる。
(4)人材養成プログラムの時間、コスト、費用負担	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社内での社内人材の研修が高く、社外で実施するオンライン研修、講義、次いで社内で社外講師を招へいしての研修、講義と様々なパターンでの研修が行われている。</li> <li>・1~2日間(6~12h)程度34%、数回(20~30h)程度 33%、十数回(60h)程度 12%、数か月間(100h)程度 12%で、数回で20h~40h程度を費やせる時間帯といえる。</li> <li>・コスト負担は、会社負担50%、行政、組合等が主催で無料32%、個人一部負担 8%である。</li> </ul>
(5)IIICAが開発するリカレント人材養成プログラムについて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既存従業員のスキルアップとして、条件次第で受講・導入してみたい28%、今後、検討していきたい44%。</li> <li>・新入社員の導入研修として、条件次第で受講・導入してみたい24%、今後、検討していきたい52%。</li> <li>・導入に対しては、前向きである。</li> <li>・熊本県デジタル推進局、熊本県情報サービス産業協会との連携等も考えられる。</li> </ul>
(6)IIICAに対しての要望等	* 人材育成のターゲットは開発エンジニアだけでなく、エンジニアスキルがない、営業、一般職の従業員にも受講できるものとしてほしい。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・オンライン、e-ラーニングが受講しやすいが、対面型、集合研修で他社や他業種の方とも接点を持たせたい。</li> <li>・生成AI×データ活用の分野は、新しいスキル・知識として必要性が高い。</li> <li>・データビジネス、データサイエンスの教育は必要である。</li> <li>・現場での実行力とマインドを鍛える実践フィールドワーク。</li> <li>・AI・IoTとデータ実践、セキュリティ診断実践は関心が高い。</li> <li>・地域活性化⇆採用の意味合いで、採用DXのツールを地場企業に無償提供しており、IT×地方創生は関心がある。</li> <li>・スキルよりも考え方、他社の方とのコミュニケーション、 <ul style="list-style-type: none"> <li>・数回(20~30h)程度(対面・オンライン・e-ラーニング 講座併用) 日帰り2回、</li> <li>宿泊1回1回1万~2万円</li> </ul> </li> <li>・集合研修 IT+他の業界を交えて研修してほしい。</li> </ul>

## ■リカレント教育・企業ニーズ調査(企業側)

調査名	先行事例研究
目的と手法	リカレント教育を実施している、予定している教育機関、行政、器具用について事例研究を行い、その実態を把握する。
実施数	<p style="text-align: center;"><b>【大学、専門学校、高専】</b> ヒアリング・事例調査 計6件</p>
調査対象	大阪観光大学、岡山理科大、神山まると高専、九州産業大学、熊本ソフトウェア株式会社、熊本県デジタル推進局、
教育機関で行っているリカレント等の教育プログラム	<p>◎大阪観光大学、2022年 観光DX人材育成講座応用編</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対象者：DMO等の職員、自治体の観光業務担当者。またはDMOへの転職希望者</li> <li>・科目時間：全科目60時間</li> <li>・カリキュラム：オンライン講座：20時間、フィールドワーク：7時間、対面講座：32時間</li> <li>・オンライン受講生等の延べ参加者は1,304人を数客</li> <li>・オンラインと対面の実施が良いが</li> <li>・フィールドワーク1泊2日は、評価が高かった。</li> </ul> <p>◎岡山理科大学は、2025年4月に通信教育部 情報理工学部/情報科学科を新設する（設置構想中）。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・通信教育部 情報理工学部情報科学科（仮称）は、全科目オンラインのメディア授業を実施する。</li> <li>・スクーリングは課さず、通学不要で自分に合った環境で学習できる。</li> <li>・「AI技術」「ビジネスデータサイエンス」はIICAもそうであるが、これからの注目される科目である。</li> <li>・現役の高校生以外に社会人の学びニーズにも対応していきたい。</li> </ul> <p>◎九州産業大学は、2023年度 文部科学省「令和4年度成長分野における即戦力人材輩出に向けたリカレント教育推進事業」に採択され、「次世代観光マネジメントリーダー育成プログラム」を実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総授業科目23科目/36コマ、60時間+現地学習、履修証明書発行</li> <li>・対象者：DMO関係、自治体の観光課、観光協会、旅行業、宿泊業、観光業界以外からの転職希望者、</li> </ul> <p>◎熊本県では、「くまもとDX推進コンソーシアム」を立ち上げている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・データ活用スキルを習得してDXを推進！「データ活用ブートキャンプ」</li> <li>・デジタル社会に必須の「データ」。全9回のプログラムを通じ、データの収集・分析・仮設・検証・改善プランの策定について学ぶ、デジタル人材育成プログラム。</li> <li>・対象：BIツール（Tableauなど）を使ったデータ分析、活用のスキルを習得し、データを活用して自社や業界、地域のデジタル化・DXを進めたい方</li> <li>・全9回 平日 18:00～20:00（1回2時間）20時間</li> <li>・開催方法：オンライン（Zoom）2日間は現地開催</li> </ul>
IICA、リカレント教育に対するの要望や期待	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リカレント教育プログラムの受益者負担として、個人がどのくらいコスト負担できるかが悩ましい。大阪観光大学も文科省事業も受講生は多かったが、無償だったことも大きい。</li> <li>・60時間以上の履修証明プログラムの時間は、本受講生にとって、結構ハードルが高かった。30時間程度は妥当であろう。</li> <li>・フィールドワークについては、全国の先進地に学びたいというニーズがかなり高かったので、阿蘇での特別感のあるFWは可能性がある。</li> <li>・地域観光のIT活用コースは、阿蘇の現場FWとの連携などは面白いと考えられる。</li> <li>・一方、ITエンジニアコースのテーマ「生成AI×データ活用で次世代の課題解決力」は良いが、IT企業の従業員がどこまで対面やFWを受講できるかは課題であろう。</li> <li>・受講生の募集が難しいので、大学や自治体との連携も視野に入れてみてはどうか。</li> <li>・「データ活用ブートキャンプ」のリモート、e-ラーニング、対面講座の形式も参考となる。</li> <li>・デジタル戦略局デジタル戦略推進課としてもIICAの来年度のリカレント教育事業について連携が可能である。</li> <li>・60時間の正規講座は、時間的に、土日開催は、受講生には厳しいスケジュールである。今回は、30時間を一つの目安としたい。</li> </ul>

## ■リカレント教育・社会人の学び直し調査(受講生・消費者)

調 査 名	リカレント教育・社会人の学び直し調査(受講生・消費者)
調 査 目 的	観光業界に関心が高い、転職・就職希望者にリカレント教育・社会人の学び直し調査を行い、その実態を把握する。 異業種からの転職・就職の意向とスキルを検証する。
調 査 対 象	インターネット調査: 観光業界に関心が高い、転職・就職希望者
調 査 手 法	やまところキャリア登録会員約 29,000 名 ・調査期間: 2023 年 12 月 1 日(金)～12 月 10 日(日) ・調査方法: WEB 上のアンケートフォームより入力
調 査 数	目標 150 件⇒261 件
調 査 項 目	*リカレント教育の受講経験、意向度、 *観光業界で学びたい知識・技能 *リカレント教育の時間、形態、*自己負担の受講料、
分 析 内 容 (集計項目)	*観光業界に関心が高い、転職・就職希望者のリカレント教育ニーズ *リカレント教育への参加意識、受講料の有料化の有無

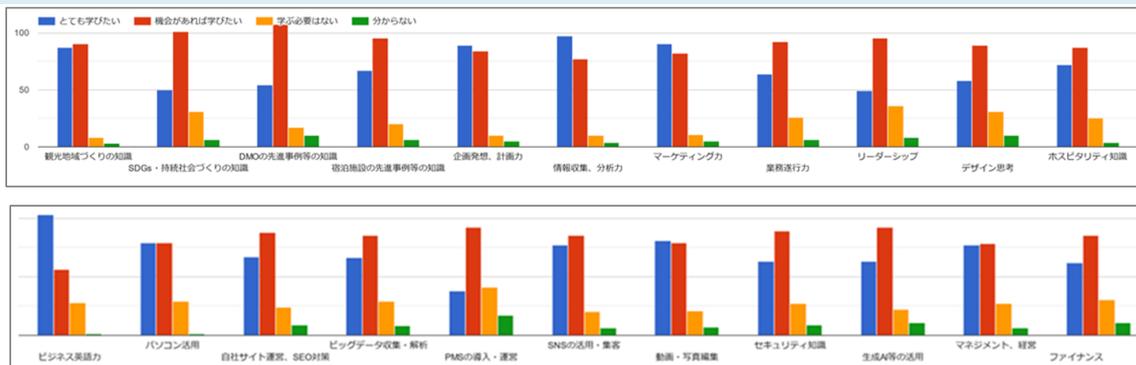
### ○調査結果のまとめ

\*観光業界で活躍するためにリカレント教育を受講してみたいと回答した方の回答  
(観光関連業務に従事している方 約6割)

問)どのようなスキル・知識を学びたいと思うか。

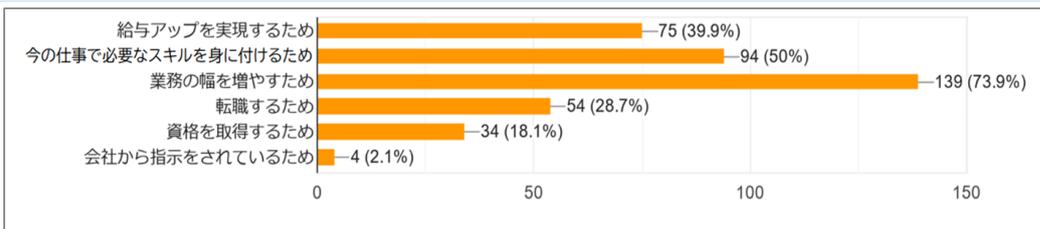
・対課題解決力【情報収集・分析力】【企画発想・計画力】【マーケティング力】が高い。

また、スキル【パソコン活用】【SNSの活用・集客】【動画制作・編集】【ビッグデータ解析】【英語力】が挙げられた。



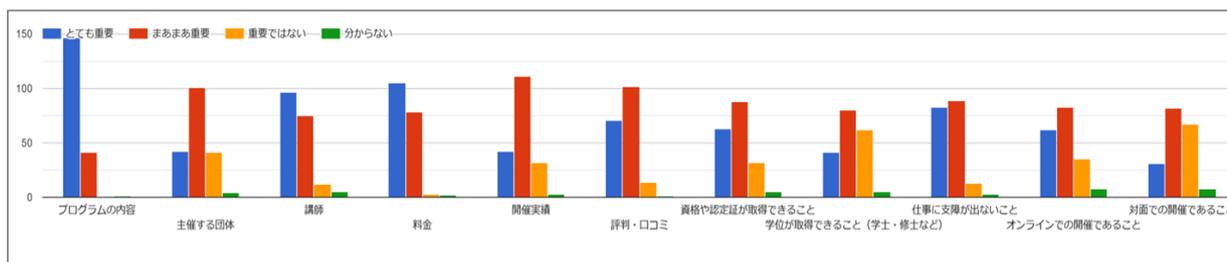
問)リカレント教育を受講したい理由(受講の目的)

・業務の幅を増やすため、仕事に必要なスキル取得、給与アップを実現するためにが、多く回答された。



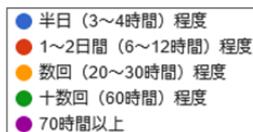
問)リカレント教育の受講を検討する上で、各項目の重要度

・プログラム内容と講師陣、料金が多いことと、「仕事に支障がないこと」で曜日やオンライン対応の必要性も挙げられた。



問)学びたいプログラムがあった場合、プログラムのトータル時間はどれくらいか。

・半日(3~4h)程度21%、1~2日間(6~12h)程度32%、数回(20~30h)程度34%で、1日~数回で10h~30h程度を学びの時間にあてられると言える。



○開発に際して実施した実証講座の概要

実証講座の対象者	R5年度は実証講座の実施はしない。
期間(日数・コマ数)	
実施手法及び実施内容	
想定される受講者数	

### iii) 取組を効果的・効率的に実施するための工夫

#### ◎注文式教育的な企業提携の仕組み

本事業において、企業のリカレント教育のニーズを事前に的確に把握し、授業・講師の一部提供と共に、リカレント教育で最も課題となる既存従業員の送り出しを一定数、企業と約束することで、受講生の安定的・持続的な確保が可能である。

本事業の人材ニーズ調査で、関心の高い企業・団体と提携した企業とリカレント教育の具体的な要望や仕様(人数、時期、カリキュラム内容)を聞き取り、受講生の供給や実証授業の仕様について意見交換を行った。

特に、熊本県旅館ホテル生活衛生同業組合、熊本市観光旅館ホテル協同組合、熊本県情報サービス産業協会、熊本県 デジタル戦略推進課と連携したことで、次年度の受講生募集等にも関係性を構築できた。

#### ◎「リカレント教育に強い専門家の支援」

本事業においては、既にリカレント教育の実績がある教育機関、企業の知見が重要である。今回は、2人の専門家で招へいし、カリキュラム、シラバスの監修をしていただいた。



大阪観光大学  
教授 小野田 金司氏

文部科学省「DX等成長分野を中心とした就職・転職支援のためのリカレント教育推進事業」を推進。



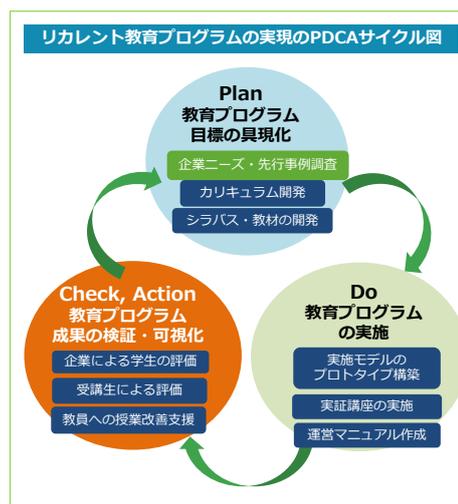
N X 商事株式会社経営  
企画部DX推進室  
今村 新氏

デジタル時代の人材確保や人材施策、育成に知見が数多くある。

#### ◎開発するリカレント教育プログラムの検証について

リカレント教育プログラムの実現のサイクルを可視化することにより、質の向上を図るとともに、業界団体・企業の信頼を確保し、受講生本意の教育を実現する。

Check, Action では、企業や受講生、教員の評価、検証を取り入れる。次年度以降。



## ◎リカレント教育プログラム成果の検証

### (1)実証講座の受講生からの評価

- ・受講後直ぐと半年後のアンケート調査で測定。講座の理解度と職場での活用度を5段階で評価した際、4以上の割合度で比較測定する。
- ・講座後の後追い調査の結果、受講者が対象とする観光IT業界に就職したかを定量的データで確保する。

### (2)企業・業界団体等からの評価

- ・企業・団体へのリカレント教育への評価をアンケート調査で行い、必要性、重要性を5段階4以上の割合度で測定する。
- ・リカレント教育プログラム修了生について、受講後半年、3年目の活躍状況について、受講生と企業からそれぞれレポートをもらう仕組みを設ける。

### (3)教員への授業改善支援

- ・(1)(2)の評価を元に、リカレント教育プログラムの授業を担う教員への改善支援を行う。

## ◎リカレント教育プログラム成果の検証体制

- ・前述した「観光ITリカレント教育」は、学校、企業、団体、行政のメンバーで構成しており、評価、検証を行える。

また「観光ITリカレント教育部会」のメンバーを中心に、連携する業界団体・学校から更にメンバーを募り、3年目により連携を深めていく。

(5) 事業実施に伴う成果物(成果報告書を除く)

◎IT 利活用コースの構成とシラバスの案

科目群	科目名	講座内容	総時間
<p>【教養科目群：観光地域づくり】</p> <p>地域のトップランナーからの講義を通して地域の課題解決へのアプローチ方法を習得</p>	観光地域づくり学	<p>観光地域づくり／地域課題解決の知見・ノウハウを実践者から学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・井手修身（アイデアパートナーズ）：地域活性化</li> <li>・柳田紀代子（尚絅大学）：くまモン学</li> <li>・門田（マサカノ）：地域づくりとDMO</li> </ul> <p>観光地域づくり／地域課題解決の知見・ノウハウを実践者から学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・宮崎富夫（陣屋コネクト）：宿泊施設DX</li> <li>・村岡浩司（九州パンケーキ）：九州ブランドづくり</li> <li>・飯干淳志（高千穂ムラたび）：農村活性化</li> </ul>	6.0
<p>【実務科目群：観光DX】</p> <p>予習・参加型講義・課題を通して実務的な思考・作業力を習得</p>	AI&ITツール利活用実務	<p>観光地域づくりの現場におけるITツールの活用方法を習得する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①実務系ITツール（デザインツール）を使いこなす</li> <li>②実務系ITツール（生成系AI）を使いこなす</li> </ul>	4.0
	デジタルマーケティング実務	デジタルマーケティングの全体像と、WEBサイトやSNS、Googleマイビジネス等の導線設計と運用のポイント、インターネット広告の設計と運用について学ぶ	2.0
	観光DX実務	<p>DXやテクノロジー導入のケーススタディを行う</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①IoTやデータ活用（データドリブンな戦略策定）</li> <li>②旅館マーケティング（OTAの利活用）</li> </ul>	4.0
<p>【実践科目群：阿蘇FW】</p> <p>阿蘇での演習・フィールドワークを通して実践的にスキルを習得</p>	PR&SNS 実践	プレスリリースの書き方、SNSの運用方法、投稿内容、SNS広告のかけ方（A/Bテストや予算策定）を学ぶ	3.5
	動画制作 実践	プロモーションの一環として日常的にSNSやYoutubeにアップする動画を、スマホ撮影と簡単な編集作業（カット、テロップ、BGMとSEなど）で制作する	3.5
	地域課題解決 実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域活性化と観光、地域経済のあり方、ビジネス戦略とマーケティング思考、及びIT利活用の現状を阿蘇で学ぶ</li> <li>・ファシリテーション力と、対話に基づく地域づくりのあり方を学ぶ</li> </ul>	4.0
	復興と観光地域づくり 実践	これからの地方で不可避となる自然災害と地域づくりの関係性について、熊本地震震災ミュージアムKIOKU、創作的復興を遂げた事業者の視察研修、復興リーダーとの意見交換を通して学ぶ	3.0
<b>3 科目群</b>	<b>8 科目</b>		<b>30.0 時間</b>

## ◎IT エンジニアコースの構成とシラバスの案

科目群	科目名	講座内容	総時間
①DX推進におけるデータ分析・AI活用の役割	生成AIの基本としくみを理解する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・AI技術とは：その概要と企業におけるAI活用の全体像</li> <li>・生成AIの基本：誕生の背景／どんな仕組みなのか</li> <li>・生成AIを成長・進化させるキーポイント</li> <li>・使いこなすために必要なプロンプト力、活用ガイドライン</li> </ul>	6
	データ分析の基本としくみを理解する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・データ分析とは</li> <li>・オープンデータから見えてくるもの</li> <li>・主要な分析手法とツール</li> </ul>	3
	データ分析・AI活用を成功させるためのポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・データ分析・AI活用の成功事例から学ぶ</li> <li>・データ分析・AI活用を成功させるための体制作り</li> <li>・データ分析・AI活用を成功させるためのツールの活用</li> </ul>	3
②DX実践ケーススタディ	陣屋コネクト社のDX推進戦略と取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>DX推進の知見・ノウハウを実践者から学ぶ</li> <li>・宮崎富夫（陣屋コネクト）／システム担当・利用部門</li> </ul>	3
③トレーニング データ分析	DX実践ケーススタディの振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ケーススタディから学んだDX推進ポイントの整理</li> <li>・ケーススタディのDX推進におけるデータ分析・AI活用の具体的な内容</li> </ul>	3
	データ分析・AI活用ツールのハンズオントレーニング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・データ分析・AI活用ツールの基礎操作</li> <li>・データ分析・AI活用ツールの活用方法</li> <li>・自社の課題解決に役立つデータ分析・AI活用の方法</li> </ul>	9
④グループワーク プレゼンテーション	各自テーマの設定・グループワーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在取り組んでいる業務の現状分析、課題の特定</li> <li>・グループ内での共有、テーマの絞込みとDX推進企画立案</li> </ul>	6
	プレゼンテーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各グループによる企画発表</li> <li>・質疑応答～総括</li> </ul>	3
4科目群	8科目		36.0時間

## ◎事業の成果物 3 か年

	取組事項	成果物	成果内容
令和5年度 (1年目)	【1】リカレント教育・事業者側ニーズ調査	①IT利活用コース 回収30件⇒73件 ②ITエンジニアコース 回収30件⇒25件 合計60件⇒ <b>98件</b>	*リカレント教育を受講させたい従業員の経験、異業種からの転入者のスキルレベル、 *リカレント教育コンテンツの時期・時間、形態、コスト負担を把握した。 *抜粋：観光コンテンツ分野（宿）、エリアマネジメント分野（DMO）が求めるスキル：対課題解決力【業務推進力】【情報収集・分析力】【企画発想・計画力】【マーケティング力】【SNSの活用・集客】【自社サイト運営・SEO対策】【ビッグデータ解析】ITサービス分野（IT企業）が求めるスキル、対課題解決力【プロジェクトマネジメント力】【コミュニケーション力】【リーダーシップ力】【情報収集・分析力】【企画発想・計画力】、【テスト・開発プロセス知識】【ビッグデータ収集・解析】
	【2】リカレント教育・先行事例調査	教育機関、行政機関、企業 6件⇒ <b>6件</b>	*リカレント教育の時期・時間、形態、受講料、*受講者の募集・広報状況、事業終了後の継続性を把握した。 *抜粋：・大学のリカレント教育60時間以上の履修証明プログラムの時間は、本受講生にとって、結構ハードルが高かった。30時間程度は妥当である。
	【3】リカレント教育・社会人の学び直し調査	観光業界に関心が高い、転職・就職希望者 200人⇒ <b>261人</b>	*リカレント教育の受講経験、意向度、 *観光業界で学びたい知識・技能 *リカレント教育の時間、形態、自己負担の受講料、 *抜粋：学びのトータル時間は、1日～数回で10h～30h程度。「学び」にかけられる予算は、5,000円～1万円/月を個人負担できる。
	【4】リカレント教育・シラバス、教材の開発	①IT利活用コース シラバス案 9科目⇒ <b>8科目 30時間</b> ②ITエンジニアコース シラバス案 ⇒ <b>8科目 30時間</b> <b>合計16科目 16本</b>	◎IT利活用コース 【全体テーマ】「課題解決力×ITスキルで観光地域づくりを加速させる～地域観光リーダー育成成熟」 【構成】：①観光地域づくりの取り組み方について学ぶ教養科目群、②観光DXについて学ぶ実務科目群、③阿蘇FWを通して学ぶ実践科目群の3部構成 【科目数】：8科目 【受講者数】：本科生10人・聴講生（部分の受講者）20人 計30人 【授業形式と時間】：合計30時間 ◎ITエンジニアコース 【全体テーマ】「観光DXの実践事例に基づくデータ分析・AI活用実践力強化」 【構成】：①DX推進におけるデータ分析・AI活用の役割、②DX実践ケーススタディ、 ③トレーニングデータ分析、④グループワーク科目群の3部構成 【科目数】：8科目 【受講者数】：本科生10人・聴講生（部分の受講者）10人 計20人 【授業形式と時間】：合計36時間
	【5】講座実施のプロトタイプ構築	次年度への講座実施モデルのプロトタイプ構築（実施期間、時間、受講形式など）を整理。	【開催時期】：令和6年6月～11月 【授業形式と時間】： ・IT利活用コース：合計30時間、・リアルタイム型オンライン講義 7.5時間 ・オンデマンド型e-ラーニング 9.5時間・現地開催13.時間 ・ITエンジニアコース：合計36時間、・リアルタイム型オンライン講義 16.5時間 ・オンデマンド型e-ラーニング 7.5時間・現地開催12.時間 【実施形態】：・基本は両コースとも、平日夜にリアルタイム型オンライン講義で開催する。質疑・意見交換会を付ける。阿蘇でのFWや集合型の講義は、土日に開催する。

令和6年度 (2年目)	【1】リカレント教育・シラバス、教材の開発	①IT活用コース シラバス案 8科目 30時間 ②ITエンジニアコース シラバス案 8科目 36時間 合計16科目	◎IT活用コース 【全体テーマ】「課題解決力×ITスキルで観光地域づくりを加速させる～地域観光リーダー育成塾」 【構成】：①観光地域づくりの取り組み方について学ぶ教養科目群、②観光DXについて学ぶ実務科目群、③阿蘇FWを通して学ぶ実践科目群の3部構成 【科目数】：8科目 【授業形式と時間】：合計30時間 ◎ITエンジニアコース 【全体テーマ】「観光DXの実践事例に基づくデータ分析・AI活用実践力強化」 【構成】：①DX推進におけるデータ分析・AI活用の役割、②DX実践ケーススタディ、③トレーニングデータ分析、④グループワーク科目群の3部構成 【科目数】：8科目 【授業形式と時間】：合計36時間
	【2】リカレント教育の広報と受講者募集	・リカレント教育の紹介HP、パンフレット制作 ・リカレント教育の紹介 動画制作 3分間 6本	①IT活用コース、②ITエンジニアコースの業界団体、企業向けにHPやパンフレット等のツールを作成し広報を行い、受講者を募集する。 HP、パンフレット等制作、動画制作 3分間 6本、
	【3】リカレント教育・実証講座の実施	①IT活用コース 8科目 ・本科生 12人 ・聴講生 28人 合計40人 ②ITエンジニアコース ・一部の公開講座を開催	①IT活用コース業界・事業者と連携してリカレント講座を実施する。 IT活用コース 8科目 ・本科生 12人 ・聴講生（部分の受講者） 28人 合計40人 ②ITエンジニアコースは、一部の公開講座を開催して、次年度への周知、開催につなげる。
	【4】継続的連携組織	継続的な企業提携の仕組み導入	*専門学校と業界団体、企業等で、本事業の成果物が継続的な利活用されるために、注文式教育的な企業提携の仕組みを導入する。また、教育機関、企業・団体等に対して積極的にしていく。
令和7年度 (3年目)	【1】リカレント教育・シラバス、教材の修正	①IT活用コース シラバス案 8科目 30時間 ②ITエンジニアコース シラバス案 8科目 36時間 合計16科目	◎IT活用コース 【全体テーマ】「課題解決力×ITスキルで観光地域づくりを加速させる～地域観光リーダー育成塾」 【構成】：①観光地域づくりの取り組み方について学ぶ教養科目群、②観光DXについて学ぶ実務科目群、③阿蘇FWを通して学ぶ実践科目群の3部構成 【科目数】：8科目 【授業形式と時間】：合計30時間 ◎ITエンジニアコース 【全体テーマ】「観光DXの実践事例に基づくデータ分析・AI活用実践力強化」 【構成】：①DX推進におけるデータ分析・AI活用の役割、②DX実践ケーススタディ、③トレーニングデータ分析、④グループワーク科目群の3部構成 【科目数】：8科目 【授業形式と時間】：合計36時間
	【2】リカレント教育の広報と受講者募集	・リカレント教育の紹介HP、パンフレット制作 ・リカレント教育の紹介 動画制作 3分間 6本	①IT活用コース、②ITエンジニアコースの業界団体、企業向けにHPやパンフレット等のツールを作成し広報を行い、受講者を募集する。 *HP、パンフレット等制作、動画制作 3分間 6本、
	【3】リカレント教育・実証講座の実施	①IT活用コース 8科目 ②ITエンジニアコース 8科目 ・本科生 各15人 計30人 ・聴講生（部分の受講者） 計40人 延計70人	IT活用コース、ITエンジニアコースについて、業界・事業者と連携してリカレント講座を開催する。 ①IT活用コース 8科目 ②ITエンジニアコース 8科目 ・本科生 各15人 計30人・聴講生（部分の受講者） 計40人 延計70人
	【4】継続的連携組織	継続的な企業提携の仕組み強化	*専門学校と業界団体、企業等で、本事業の成果物が継続的な利活用されるために、注文式教育的な企業提携の仕組みを導入する。また、教育機関、企業・団体等に対して積極的に働きかけて、強化していく。

(6)事業実施によって達成する成果及び測定指標

KPI(成果測定指標)		単位	事業開始前	令和5年度	令和6年度	令和7年度
事業者側ニーズ調査の回答数/ 社会人の学び直し調査 回答数	目標値	人		60/150		
	実績値	人		98/261		
	達成度	%		163%/174%		
(上記 KPI の測定手法) アンケート調査の回収による回答数で測定						
KPI(成果測定指標)		単位	事業開始前	令和5年度	令和6年度	令和7年度
リカレント教育 シラバスの開発 科目数	目標値			14		
	実績値			16		
	達成度	%		114%		
(上記 KPI の測定手法) 開発したシラバスの科目数と時間で測定する						
KPI(成果測定指標)		単位	事業開始前	令和5年度	令和6年度	令和7年度
リカレント教育 教材の開発 科目数	目標値			—	14	
	実績値					
	達成度	%				
(上記 KPI の測定手法) 開発したシラバスの科目に相当する教材数を測定する						
KPI(成果測定指標)		単位	事業開始前	令和5年度	令和6年度	令和7年度
実証講座の実施 受講者数 (聴講生数を含む延数)	目標値			—	12(40)	30(70)
	実績値					
	達成度	%				
(上記 KPI の測定手法) 受講生の数を本科生と聴講生に分けて測定する。						
KPI(成果測定指標)		単位	事業開始前	令和5年度	令和6年度	令和7年度
受講生の講座の理解度、その後の活用度。5段階4以上の割合度	目標値			—	60	70
	実績値					
	達成度	%				
(上記 KPI の測定手法) 受講後直ぐと半年後アンケート調査で測定。講座の理解度と職場での活用度を5段階で評価した際、4以上の割合度で比較測定する。						
KPI(成果測定指標)		単位	事業開始前	令和5年度	令和6年度	令和7年度
企業・団体へのリカレント教育への評価調査。5段階4以上の割合度	目標値			—	60	70
	実績値					
	達成度	%				
(上記 KPI の測定手法) 企業・団体へのリカレント教育への評価をアンケート調査で行い、必要性、重要性を5段階4以上の割合度で測定する。						